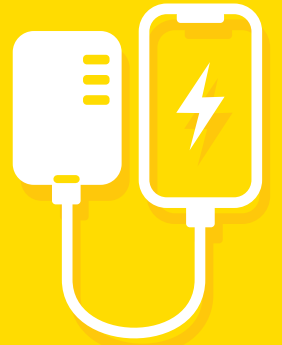




豊後大野市



防災



ガイドブック



地震や風水害などの自然災害の発生を防ぐことはできませんが、災害による被害は日頃からの備えによって減らすことができます。そのためには、行政などによる防災対策である「公助」ばかりでなく、**自分の命は自分で守る「自助」と地域全体で助け合う「共助」**が欠かせません。

いざという時に備えて、非常持ち出し品の準備や家屋の耐震改修、家具の固定など、まずは身の回りの安全対策からはじめましょう。災害が発生した場合を想定して、どこに避難すればよいか、家族とはどう連絡を取り合うかなどについて事前に家族で話し合っておくことも大切です。地域の自主防災組織の活動にも積極的に参加し、防災訓練などを通じて災害時の協力体制を確認しましょう。

本冊子は、地震、風水害、土砂災害などに関する基本的な知識や災害発生時の対処法をまとめています。また、土砂災害については、市内で想定されている危険箇所を確認できる防災マップも掲載しています。本冊子をよくお読みいただき、また常に手近に備えていただき、災害時の被害軽減に役立ててください。

目次

■ 5つの教訓 大規模災害の教訓	1	■ 火災	
■ 避難情報 警戒レベルの確認	2	被害を最小限に	20
■ 新しい防災気象情報	3	避難と予防	21
■ 避難行動判定フロー	4	■ 原子力災害	
■ マイ・タイムラインの作成	5	情報収集	22
■ 災害時の避難ポイント 安全な避難のために	6	防護対策「屋内退避」	23
■ 非常持ち出し品 準備しておきたい非常持ち出し品	7	■ 地域防災	
■ 地震災害		地域ぐるみで支えあう	24
主な地震災害	8	地域で支えあう避難支援への取組	25
地震の揺れと想定される被害	9	■ 応急手当 いざというときに備えて	26
地震発生時の行動	10	■ 避難所生活 心得と感染症対策	27
屋内・屋外での地震対応	11	■ 避難所一覧	28
大きな揺れに備えて「安全対策」	12	■ 要配慮者利用施設一覧	29
南海トラフ地震臨時情報	13	■ 防災マップの使い方・見方	30
■ 風水害		■ 豊後大野市 防災マップ	
必要な情報の選択	14	全図	31
集中豪雨の危険性	15	広域図	32~121
危険判断能力を高める	16	詳細図	122~143
屋内・屋外の風水害対策	17	■ 防災情報の収集	144・145
■ 土砂災害			
種類と前兆現象	18		
避難のタイミングとポイント	19		

豊後大野市防災ガイドブック

令和8年3月発行

発行・お問い合わせ先: 豊後大野市 総務課 防災危機管理室
制作・印刷: (株)ゼンリン大分支店

TEL0974-22-1061
TEL097-534-0879

「この資料は、豊後大野市長の承認を得て、同市三重町都市計画図を使用したものである。(承認番号)令和6年10月15日建設第1015002号」
「この資料は、豊後大野市長の承認を得て、同市三重町都市計画図を使用したものである。(承認番号)令和2年11月2日建設第1102002号」
「この地図は、大分県知事の承認を得て、5000分の1森林基本図を使用し、調整したものである(承認番号24-41号 平成24年8月3日)」
「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R5 JHs 167-684号」
「JIS Z 8210 広域避難場所 避難所(建物)洪水/内水氾濫 崖崩れ・地滑り」

(禁無断複製)©2026 ZENRIN CO., LTD.

5つの教訓 大規模災害の教訓

教訓1

行政対応の限界とみなさまの対応

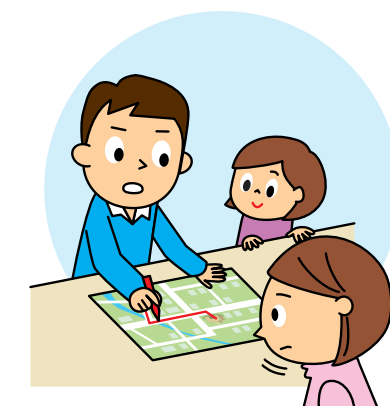
大規模災害時、行政・警察・消防などは最大限対応しますが、限界があります。熊本地震では庁舎の被災により、行政機能が大きく損なわれました。地震の活動期に入った日本では、住民自身が「自分の命は自分で守る」「地域は地域で守る」という自助・共助意識と協力が不可欠です。



教訓2

避難行動

地震時には建物の崩壊、火事、津波などから「素早く避難」することが命を守るために最重要です。避難行動は日頃の訓練や防災教育により身につきます。例として、東日本大震災で釜石市の小中学生が全員無事だったのは、家庭や学校での防災教育の徹底によるものです。日常から防災について話し合きましょう。



教訓3

救助主体者

阪神・淡路大震災では救助された人の大半が近隣住民の協力によるものでした。災害時、消防・警察・自衛隊などが全ての救助に対応するのは困難です。72時間以内の救助が生死をわけるため、地域住民の協力が極めて重要です。普段から地域で話し合い、訓練しておきましょう。

教訓4

防災対策

地震対策では建物の耐震化及び家具の転倒・落下防止が重要です。国は住宅耐震化率を95%目標に推進しており、これにより死亡・負傷者の減少が期待されます。家具の転倒防止で二次災害も防ぎやすくなります。日常から対策に取り組みましょう。

教訓5

社会の繋がりの強化

災害時にはスマートフォンなどで情報収集や安否確認を行うことができますが、一方で地域や社会全体の繋がりの重要性が再認識されています。復興には近所同士、地域の助け合いや協力が不可欠です。日常から繋がりを強化することが有効な防災対策となります。

災害時の教訓まとめ

日頃からの備え(自助)・訓練・繋がり(共助)が、
いざという時に命と地域を守ります。

避難情報 警戒レベルの確認

集中豪雨や台風などによって、水害や土砂災害などの災害が発生するおそれがあるとき、どの情報をもとに、どのタイミングで避難をするべきか?それぞれの状況に応じて避難できるよう、災害発生危険度と住民の方々が取るべき行動を5段階の「警戒レベル」を用いてお伝えします。


避難情報等 (警戒レベル)		河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)	
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保! 警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。 警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはいけません! ただし、警戒レベル5は、市区町村が災害の発生・切迫を把握できた場合に、可能な範囲で発令される情報であり、必ず発令される情報ではありません。	緊急安全確保 (市町村が発令)
4		危険な場所から全員避難 警戒レベル4避難指示は、立退き避難に必要な時間や日没時間等を考慮して発令される情報で、このタイミングで危険な場所から避難する必要があります。	避難指示 (市町村が発令)
3		危険な場所から高齢者等は避難 「高齢者等」は障がいのある人や避難を支援する者も含んでいます。 さらに、高齢者等以外の人にも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングです。	高齢者等避難 (市町村が発令)
2		気象状況悪化	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁が発表)
1		今後気象状況悪化のおそれ	早期注意情報 (気象庁が発表)

※市町村長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報など(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

自主避難について

危険を感じたらすぐ避難しましょう

局地的集中豪雨のような、突発的な異常気象の場合には、市からの避難情報が間に合わないケースもあります。その際には、身の危険を感じたら安全な場所にいる家族や知人の家、避難所などへ自主的に避難しましょう。



避難に関する2つの情報

災害の危険性が高まった場合、市町村は避難に関する情報を発令します。2種類の情報は状況の深刻度に応じて発令しますので、各情報に応じた避難行動をとります。

※警戒レベル5(緊急安全確保)は、すでに災害が発生している状況です。直ちに命を守るための最善の行動をとってください。

警戒レベル3・高齢者等避難

人的被害の発生する危険性が高まった状況。


- 避難するのに時間がかかる高齢者など災害時要配慮者やその支援者は避難を始めます。
- 通常の避難行動ができる人は、家族との連絡、非常持ち出し品の用意など避難の準備を始めます。



警戒レベル4・避難指示

人的被害の発生する危険性が非常に高まった状況、あるいはすでに人的被害が発生した状況。

- まだ避難していない住民はただちに避難します。
- 万一避難する余裕がなければ、命を守る最低限の行動を取ります。




新しい防災気象情報


令和8年度 5月下旬(予定)から注意報や警報等の名称が変わります。

現行 防災気象情報の情報体系とその名称

警戒レベル相当情報	防災気象情報				
	洪水等に関する情報			土砂災害	高潮害
5相当	指定河川洪水情報 (河川毎)	洪水害 (市町村毎)	大雨浸水害 (市町村毎)	大雨特別警報 (土砂災害)	高潮特別警報
4相当	氾濫発生情報	大雨特別警報 (浸水害)	大雨特別警報 (土砂災害)	高潮特別警報	高潮特別警報
3相当	氾濫危険情報	洪水警報	大雨警報 (浸水害)	大雨警報 (土砂災害)	警報に切り替える可能性が高い高潮注意報
2相当	氾濫注意情報	洪水注意報	大雨注意報	大雨注意報	高潮注意報
1相当	早期注意情報				



令和8年度 5月下旬からは情報の名称に「**レベルの数字**」が入り、とるべき行動が分かりやすくなるよ!



令和8年度 5月下旬(予定)から 防災気象情報の情報体系とその名称(案)

警戒レベル	大雨 低地の浸水や小さな河川の氾濫	氾濫 1級河川などの大きな河川の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや土石流	高潮 海水面上昇や高波による浸水
5	レベル5 大雨特別警報	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
..... <警戒レベル4までに危険な場所から かならず避難!>				
4	レベル4 大雨危険警報	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
3	レベル3 大雨警報	レベル3 氾濫警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
2	レベル2 大雨注意報	レベル2 氾濫注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
1	早期注意情報			

- 情報名称の最終決定は、法制度などとの関係も踏まえ、気象庁・国土交通省が行う。
- 防災気象情報(大雨、氾濫、土砂災害、高潮)を5段階の警戒レベルに合わせて発表。
- 対象災害ごとの情報として整理するとともに、レベル4の情報として「**危険警報**」を新設。
- 情報名称そのものにレベルの数字を付けて発表。(例:レベル4大雨危険警報)
- 情報と対応する防災行動との関係が明確に。

避難行動判定フロー

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。

平時に確認

あなたがとるべき避難行動は？

必ず取り組みましょう



防災マップ*1で自宅がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

*1 防災マップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。(防災マップ P32~)

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地やがけのそばなどにお住まいの方は、市からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、原則として*2、立退き避難(安全な場所に移動)が必要です。

例外

*2 浸水の危険があっても、以下のすべてを満たす場合は屋内安全確保(自宅にとどまり安全を確保することも可能です)。

- ① 洪水により家屋が倒壊または崩落してしまうおそれの高い区域の外側である。
- ② 浸水する深さよりも高いところにいる。
- ③ 浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食料などの備えが十分にある。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル3高齢者等避難が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日頃から相談しておきましょう)

いいえ

警戒レベル3高齢者等避難が出たら、市が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう。

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル4避難指示が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日頃から相談しておきましょう)

いいえ

警戒レベル4避難指示が出たら、市が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう。

*内閣府ホームページより一部を抜粋、編集して掲載

あなたがとるべき行動を知ったら

マイ・タイムラインを作りましょう(P5)

マイ・タイムラインの作成

大雨や台風などの風水害から身を守るためには、自分が住む地域の災害リスクを知り、防災気象情報を基に迅速かつ適切に避難することが重要です。

事前にマイ・タイムラインを作成し、「避難スイッチ」をオンにするタイミングなどを整理しておきましょう。

マイ・タイムラインとは

災害に対する事前の備えや、大雨・台風により浸水害や洪水、土砂災害などが発生する危険性が高まった時の避難開始のタイミング「避難スイッチ」などを、あらかじめ時系列に整理した【自分自身や家族の避難行動計画】です。



わが家の避難スイッチ！警戒レベル3発令後に必ず避難する！！

対象災害について

マイ・タイムラインの対象とする災害は、【進行型災害】を基本としています。マイ・タイムラインの作成にあたっては、災害対応時の想定外の事態を減らすため、最悪の状況を含む災害を想定することが大切です。

進行型災害

洪水や台風など、発生やその被災状況が一定程度予測できる災害。



突発型災害

地震や噴火など、発生の予測が困難な災害。



マイ・タイムライン作成例

警戒レベルと警戒レベル相当情報(防災気象情報)				
警戒レベル1 早期注意情報 (気象庁が発令) 今後、気象状況悪化のおそれあり	警戒レベル2 大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁が発令) 気象状況が悪化	警戒レベル3 高齢者等避難 (市町村が発令) 災害のおそれあり	警戒レベル4 避難指示 (市町村が発令) 災害のおそれが高まっている	警戒レベル5 緊急安全確保 (市町村が発令) 災害発生または切迫
—	はん濫注意情報	警戒レベル3相当情報 大雨・洪水警報 はん濫警戒情報	警戒レベル4相当情報 土砂災害警戒情報 はん濫危険情報 高潮警報	警戒レベル5相当情報 大雨特別警報 はん濫発生情報 高潮はん濫発生情報
警戒レベルに応じた家族の行動				
災害への心構えを高める ○天気予報を確認 ○台風の進路やいつ接近するのかチェック ○薬などを事前に受け取っておく	自分や家族の避難行動を確認 ○ハザードマップで避難場所を確認 ○非常持ち出し品の準備 ○テレビやラジオで気象情報をこまめにチェック	高齢者等は危険な場所から避難 〇家族で決めた避難場所の高台にある叔母の家に移動を開始！	危険な場所から全員避難 ○避難完了 ○引き続き気象情報を確認	命の危険、直ちに安全確保 〇自宅内の安全な場所へ避難 〇2階以上に避難
わが家の避難スイッチ！警戒レベル3発令後に必ず避難する！！				
日頃から調べておくこと、備えておくこと				
わが家の災害リスク・避難先	非常持ち出し品	情報収集ツール		
<input type="checkbox"/> 浸水する深さ 想定(3)m <input type="checkbox"/> 近隣河川までの距離(250)m <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒区域に入って(いる)いない) <input type="checkbox"/> 避難先①(叔母さんの家)まで、徒歩(10)分 避難先②(〇〇公民館)まで、徒歩(7)分 ※自宅が危険な地域ではない場合や、マンションなど頑丈な建物の場合は、屋内待機や垂直避難(建物内の2階以上) <input type="checkbox"/> 避難先までの危険な場所・特徴(避難先①道路が狭い 避難先②長い階段がある、街灯が少ない)	<input checked="" type="checkbox"/> 食料品 <input checked="" type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 電池 <input checked="" type="checkbox"/> 体温計 <input type="checkbox"/> 紙オムツ <input type="checkbox"/> ビニール手袋	<input checked="" type="checkbox"/> 飲料水 <input checked="" type="checkbox"/> 毛布 <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> 防災ガイドブック <input checked="" type="checkbox"/> 常備薬 <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> タオル	<input checked="" type="checkbox"/> 貴重品 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話の充電器 <input checked="" type="checkbox"/> アルコール消毒液 <input type="checkbox"/> 着替え <input type="checkbox"/> お薬手帳 <input type="checkbox"/> ドッグフード <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ	<input checked="" type="checkbox"/> おおいた防災アプリ <input checked="" type="checkbox"/> 県民安全・安心メール/市町村防災メール <input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input checked="" type="checkbox"/> 防災ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> 大分地方気象台HP <input checked="" type="checkbox"/> おおいた防災ポータル

大分県のホームページから要配慮者向け、地区(自主防災組織)向けのタイムライン作成様式も確認ができます。いざというときに、慌てずに適切な行動ができるよう、みんなで話し合って作成してください！

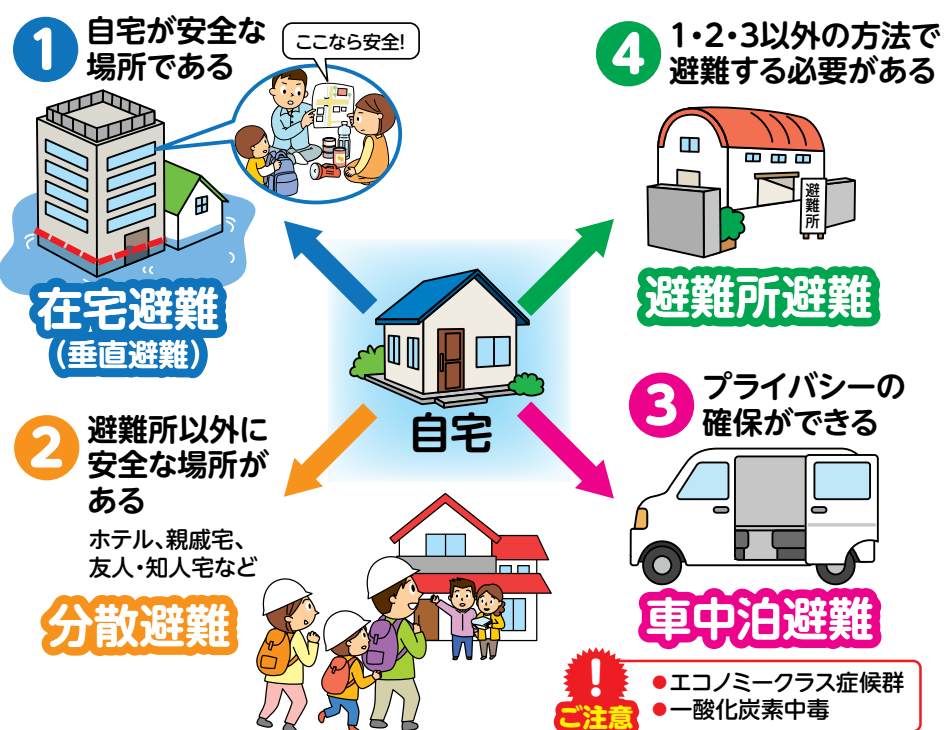


災害時の避難ポイント 安全な避難のために

避難先の検討

自然災害が発生した場合に、感染症などが流行している状況では、不特定多数の人が集まる指定避難所などでの避難生活の感染拡大リスクが高まります。そこで、災害が発生したとき感染症による2次被害を防ぐため、また、風水害時に高齢者等が事前に避難する必要がある場合(注1)など、避難所に避難する以外の方法(分散避難)もご検討ください。具体的には右記のような方法が考えられます。

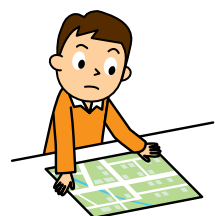
注1: 事前避難が必要な場合…警戒レベル3相当以上の気象状況(避難指示、高齢者等避難相当)



安全に避難するために

事前に準備を

普段から避難所までの安全な経路などを確認しておきましょう。



持ち物は最小限に

荷物は背負い、両手が使えるようにしましょう。



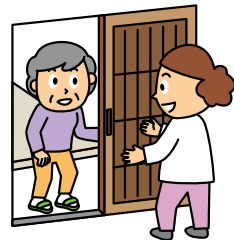
動きやすく安全な服装で

ヘルメットで頭部を保護しましょう。靴はひもでしっかりしめられる運動靴にしましょう。



隣近所で声をかけ合って

避難は2人以上でしましょう。隣近所を誘って集団で避難しましょう。



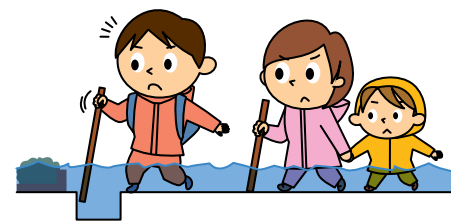
車は使わない

車は数十センチの浸水で浮いてしまいます。他の避難者や緊急車両の妨げにもなり、自分も危険です。



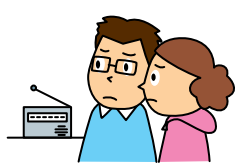
マンホールや側溝に注意を

急激な大雨が下水管に流れ込み管内の圧力が上昇して、マンホールのふたが開いてしまう場合があります。浸水が進むなか、マンホールや側溝にはまってしまうと大変危険です。



避難所では気象情報に注意を

避難所では相互に協力を。被害の状況や今後の気象状況を確認しましょう。



深さに注意

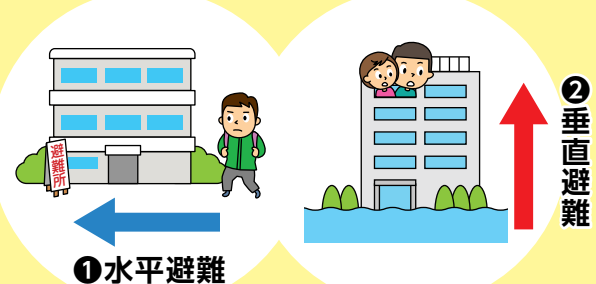
歩行可能な水深は約50センチ。水の流れが速い場合は20センチ程度でも危険になります。



命を守る最低限の行動とは = 垂直避難

危険な状況のなかでの避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、指定された避難所への移動(①水平避難)だけでなく、命を守る最低限の行動(②垂直避難)が必要な場合もあります。

浸水による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、自宅や近隣建物の2階以上へ緊急的に避難し、救助を待つことも検討してください。



例えば

下記の場合、屋外への移動は危険です。

- 夜間や急激な降雨で避難経路上の危険箇所がわかりにくい。
- ひざ上まで浸水している(50センチ以上)。
- 浸水は20センチ程度だが、水の流れる速度が速い。
- 浸水は10センチ程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある。
- 津波が迫っていて、安全な高台に避難できない。

非常持ち出し品 準備しておきたい非常持ち出し品

非常持ち出し品は家族構成を考えて必要な分だけ用意し、避難時にすぐに持ち出せる場所に保管しておきましょう。災害発生時に最初に持ち出す非常持ち出し品と、災害から復旧するまでの数日間を支える非常備蓄品を分けて用意しておきましょう。

非常持ち出し品

いざというときにすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

あらゆる家庭に共通して必要なもの

POINT!! 自分が使うもの(食料、防寒具、薬など)を持って避難しましょう。

携帯ラジオ

- ラジオ
- 電池(多めに用意)



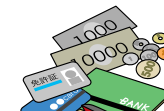
救急医療品

- 常備薬
- 鎮痛剤
- 胃腸薬
- 傷薬
- 包帯
- 絆創膏
- 風邪薬
- 絆創膏



貴重品

- 現金、10円玉
- 印鑑
- 預金通帳
- マイナンバーカード
- 免許証
- 権利証書



懐中電灯

- 懐中電灯(できれば一人にひとつ)
- 電池(多めに用意)



非常食品等

火を通さずに食べられるもの、食器など

- 非常用食品
- 缶切り
- 紙皿
- 紙コップ
- 水筒
- 缶詰
- 栓抜き
- ミネラルウォーター



生活用品

- マスク
- 除菌用品(感染症対策用)
- タオル・ハンカチ
- ティッシュペーパー
- トイレトペーパー
- ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う)
- 歯ブラシ・歯磨き粉
- 防災ガイドブック(本冊)
- 使い捨てカイロ
- 万能ナイフ・ハサミ
- ライター
- 筆記用具
- ゴミ袋



家族構成や家族の事情にあわせて必要なもの

CHECK!! 自分にとっては絶対必要!というものを準備しましょう。

女性向け用品

- 生理用品
- 化粧品
- 女性用下着
- 鏡・ブラシ等



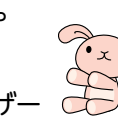
乳幼児向け用品

- 母子手帳
- ミルク・離乳食
- おむつ
- おしりふき



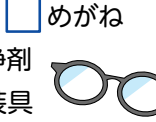
こども向け用品

- おもちゃ
- おやつ
- 防犯ブザー



高齢者向け用品

- 介護用品
- 入れ歯・洗浄剤
- 持病薬・補装具
- めがね



非常備蓄品

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェック☑しましょう。

飲料水

- 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)
- 貯水した防災タンクなど



非常食品

- お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフーズ・チョコレート・飴(菓子類など)



燃料

- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料



その他

- 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- バケツ・各種アウトドア用品など



感染症対策のために ~非常用持ち出し袋に追加すべき物~

非常食や飲料水などだけでなく、感染を予防するため、こうした持ち物も事前に非常用持ち出し袋に入れておくようにしましょう。

- マスク
- ウェットティッシュ
- 記録用ノート
- 石鹸・ハンドソープ
- 手指消毒用アルコール
- 筆記用具
- 体温計
- 家庭での常備薬
- ビニール袋(大小)

※非常用持ち出し袋は、家族全員がわかる場所に保管しましょう。

非常持ち出し品は、使用するとき支障のないように、定期的に点検しておきましょう。とくに食品や飲料水の賞味期限はまめにチェックし、賞味期限がせまったものから順に入れ替えておきましょう。



非常持ち出し品

準備しておきたい非常持ち出し品

災害時の避難ポイント

安全な避難のために

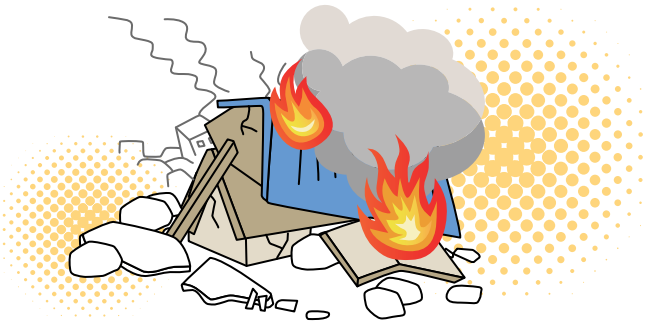
地震災害 主な地震災害

地震の発生により火災、津波、がけ崩れ、地すべり、液状化現象、建物の倒壊等が起こります。地震の後に起こるこのような災害に対しても自分の身を守ることが大切です。

火災

大規模な震災では、地震の後に大小の火災が発生することがあります。

地震直後は消防署への緊急電話が殺到し、また家屋の倒壊や道路の損壊によって、火災現場へ消防車や救急車がたどり着くまでに時間がかかります。料理を作る時間帯やストーブを使用する冬季に地震が起きた場合、火の元の始末をすることが大切です。



津波

大地震により津波が発生した場合、甚大な被害が発生することがあります。

内陸部では直接津波の影響はありませんが、旅行等で沿岸部に行った際に地震が発生し津波が襲来するかもしれません。

その際は、テレビ、ラジオで正確な情報を得ること、海岸からより遠く、より高い場所へ避難することが大切です。



がけ崩れ・地すべり

地震により急な斜面や造成地などで、がけ崩れや地すべりが発生することがあります。地すべりにより橋梁が落ちたり、道路との間に段差ができたりすることもあります。また、地震で地盤が緩んでいるところに大雨が降ると、がけ崩れや地すべりが発生しやすくなります。



液状化現象

埋立地などで地震による振動で地下水位が高い場所の地面が泥湿地のようになることです。

液状化現象により地面が波打ち、下水管やマンホールの蓋が浮き上がったりします。



建物倒壊

地震の強い揺れによりビルや家屋、橋梁、電柱などの建造物が倒壊し、ブロック塀が倒れたり、ガラスなども割れて飛散します。熊本地震では最初の地震では倒壊しなかった建物も2度目の地震や度重なる余震により傾いたり、倒壊したりしました。



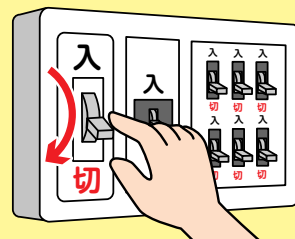
防災チェックポイント

通電火災を防ぐために

大地震が発生すると、電力線の断絶などが起こり、電気の供給停止が想定されます。その後、電気が復旧する際に、倒れた電気器具や切れた電気配線に通電し発生する火災を「通電火災」と言います。

通電火災を防ぐためにも、避難をする際は電気のブレーカーを落とすようにしましょう。

感震ブレーカーは、地震の揺れを感知して自動で電気の供給を遮断し、地震による電気火災(通電火災)を防ぐための装置です。電気火災対策には効果的です。



地震災害 地震の揺れと想定される被害

●震度階級

震度は、その場所での地震の揺れを階級であらわしたものです。10階級の区分に分けられます。

●マグニチュードと震度の違い

「マグニチュード」は、地震そのものの大きさ(規模)を表す単位です。一方「震度」は、地上のある地点での揺れの強さを10段階で表す尺度です。

「マグニチュード」と「震度」の関係は、例えば、「マグニチュード」の小さい地震でも震源からの距離が近いと地面は大きく揺れ、「震度」は大きくなります。また、「マグニチュード」の大きい地震でも震源からの距離が遠いと地面はあまり揺れなく、「震度」は小さくなります。

震度	揺れなどの状況
0	●人は揺れを感じない。
1 ★	●屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。
2 ★★	●屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。 ●電灯などのつり下げものが、わずかに揺れる。
3 ★★★	●屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。 ●棚にある食器類が音を立てることがある。
4 ★★★★	●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げものは大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。 ●座りの悪い置物が、倒れることがある。
5 弱 ★★★★★☆	●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ●棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
5 強 ★★★★★★	●物につかまらなると歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。
6 弱 ★★★★★★☆	●立っていることが困難になる。 ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
6 強 ★★★★★★★	●はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
7 ★★★★★★★★	●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。 ●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

〔気象庁震度階級関連解説表〕より

急に地震が発生するとあわてるものです。しかし、あわてずに行動することが自分の身を守ることにあります。地震発生時からの行動はどうあるべきかを日ごろより考えておくことが大切です。

地震発生

地震発生後
1~2分

地震発生後
3分

地震発生後
5分

地震発生後
5~10分

地震発生後
10分~数時間

地震発生後
~3日ぐらい

避難生活を送る
上での注意点

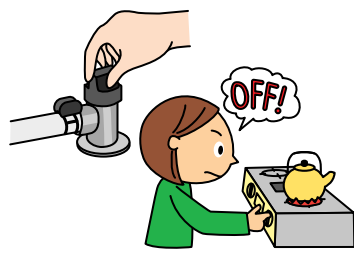
命を守る

- あわてて外に飛び出さないようにしましょう
- ドアや窓を開けて逃げ道を確保しましょう
- 家具の転倒や物の落下が有る場合は、身を守るために机などの下に身を隠しましょう



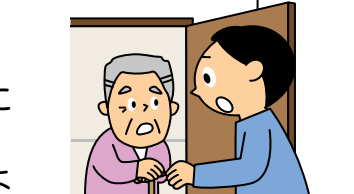
家族を守る

- 火元の確認や出火の場合は消火しましょう
- 家族の安全確認をしましょう
- 外に逃げる時には安全のため必ず靴をはきましょう
- 非常用持ち出し袋の用意がある場合は持ち出しましょう



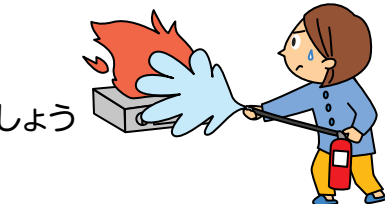
地域を守る

- 隣近所の安否確認や周囲の様子を確認しましょう
- 火災が発生している場合は周囲・消防に知らせるとともに消火活動をしましょう
- 家屋やブロック塀に倒壊の危険がある場合は近寄らないようにしましょう



子どもの迎えに行きましょう

- 日ごろより学校での災害時の防災ルールを把握しておきましょう
- 家を離れる場合は避難場所などの貼紙をしておきましょう
- 通電火災を防ぐため電気のブレーカーを落としましょう



助け合いの心で...

- 隣近所で協力し消火や救助活動をおこないましょう



- 生活必需品は備蓄でまかないましょう
日ごろから生活必需品を備蓄しておくことが大切です
- 倒壊の危険性のある家には立ち入らないようにしましょう
- 広報に注意し災害情報、被害情報を収集しましょう



- 自主防災組織を中心に行動しましょう
- 集団生活のルールを守りましょう
- 助け合いの心で生活しましょう

緊急地震速報を活用して身を守ろう!

緊急地震速報は気象庁が地震発生直後に、各地での強い揺れの到達時刻や震度を予想し、可能な限り素早く知らせる情報のことです。

緊急地震速報を発表してから強い揺れが到達するまでの時間は、数秒から長くても数十秒くらいです。

自分を守るために情報は最大限活用しましょう。



屋内での地震対応

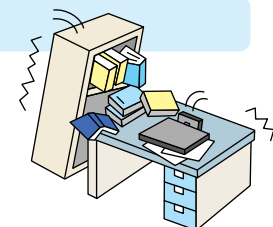
●自宅での対応

- 大きな揺れを感じたら、テーブルの下などに身を隠し自分の身を守りましょう。
- 揺れが収まったら、戸を開けて出入り口を確保しますが、あわてて外に飛び出さないようにしましょう。



●職場での対応

- 窓ガラスの飛散やOA機器・キャビネットなどの転倒に注意しましょう。
- 外へ避難するときは落下物に注意し、エレベーターは使用しないようにしましょう。



●スーパーやデパートでの対応

- 陳列商品の比較的小さい場所で、柱付近に身を寄せましょう。
- 陳列棚のガラス商品や瀬戸物、その他の商品の落下に注意しましょう。
- あわてて出口に殺到しないで、係員の指示に従いましょう。
- エレベーターやエスカレーターでの避難は避けましょう。



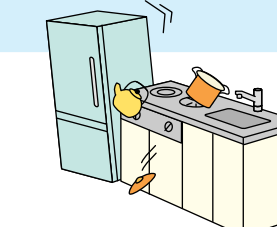
●トイレ、風呂での対応

- 風呂ではタイルや鏡、トイレでは水洗タンクなどが割れたり落ちたりすることがあるので注意しましょう。
- 揺れが収まってから避難しましょう。



●台所での対応

- 一番に火の元の確認をしますが、調理器具の落下ややけどなどに注意しましょう。
- 食器棚や冷蔵庫など大型家具の転倒に注意しましょう。



●学校での対応

- 廊下・運動場・体育館では中央部に集まってしゃがみましょう。
- 実験室などでは薬品や火災に注意しましょう。
- 通学路が危険なこともあるので勝手に行動しないで、先生の指示に従いましょう。



屋外での地震対応

●住宅地での対応

- ブロック塀や石塀は強い揺れで倒れたり壊れたりする危険があるので近づかないようにしましょう。
- 電柱や自動販売機も倒れる危険性があるので離れましょう。
- 2階建て以上の建物からはエアコンの室外機や屋根瓦などの落下の危険性があります。



●海岸での対応

- 海岸では津波に注意することが重要です。近くの高台か3階建て以上の建物の3階以上の階に避難しましょう。津波は何回も繰り返す可能性があるため、波が引いても状況を良く見極めましょう。



●川べりでの対応

- 津波は上流へ向かってくるので、流れに対して直角方向に避難しましょう。



●山や丘陵地での対応

- 山間部では落石や地すべりに注意し、危険な場所に近づかないようにしましょう。



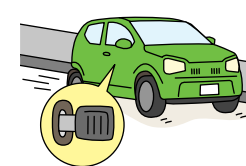
●繁華街での対応

- ビルなどからはガラスやタイル、看板が落下する危険があるので離れましょう。近くにいた場合は鞆などで頭を保護し、できるだけ早く避難しましょう。



●自動車運転中の対応

- 急ブレーキをかけることは危険なので、前後に注意しながらゆっくりと路肩に寄って停車し、エンジンを切って揺れが収まるまで車外には出ないようにしましょう。車から離れて避難する際には、キーを付けたままにしましょう。



●電車やバスでの対応

- 電車は強い揺れを感知すると緊急停止します。バスも危険回避のため急ブレーキをかけることがあります。座席に座っている場合は、低い姿勢をとって頭部を保護し、立っている場合はつり革や手すりをしっかり持って転倒に注意しましょう。



防災チェックポイント
車で避難しないように!

地震発生時は、消防車などの緊急車両の通行を確保することが大切です。みんなが車を使って避難すると、緊急車両や避難する人たちの邪魔になり、混乱を大きくしてしまいます。山間部の土砂災害危険地域、歩行困難な高齢者や病人のいる家族など、どうしても車を使わなければならない場合以外は、徒歩で避難しましょう。



事前に準備できているか、チェック✓しましょう。

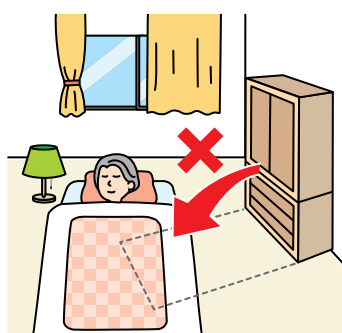
家の中の安全対策

□ 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。

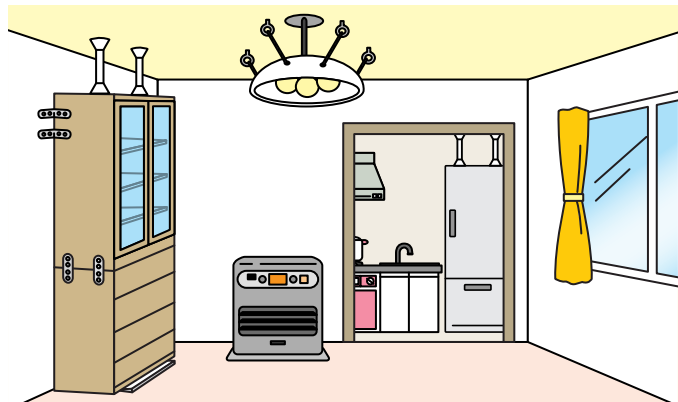
□ 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもや、お年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。



□ 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全にする。



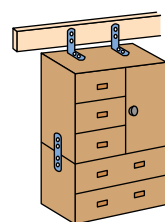
□ 安全に避難するため、出入口や通路にもものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

家具の転倒、落下を防ぐポイント

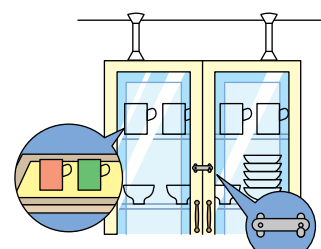
□ タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



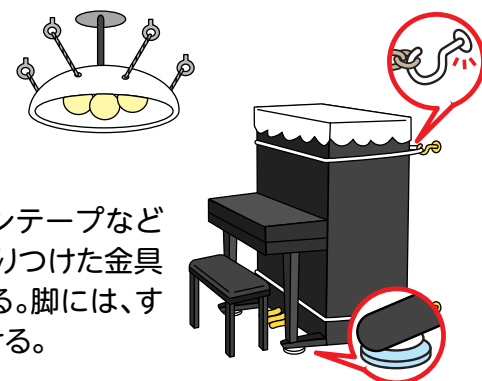
□ 食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



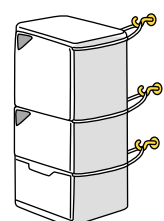
□ 照明

チェーンと金具を使って数か所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



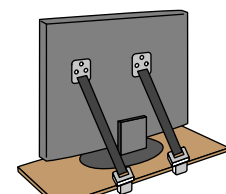
□ 冷蔵庫

扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



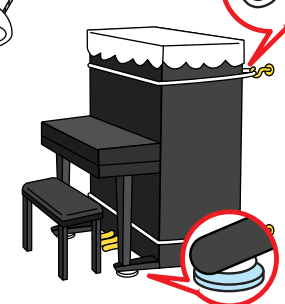
□ テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。



□ ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



家の周囲の安全対策

□ 屋根

不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

□ 窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。

□ ブロック塀・門柱

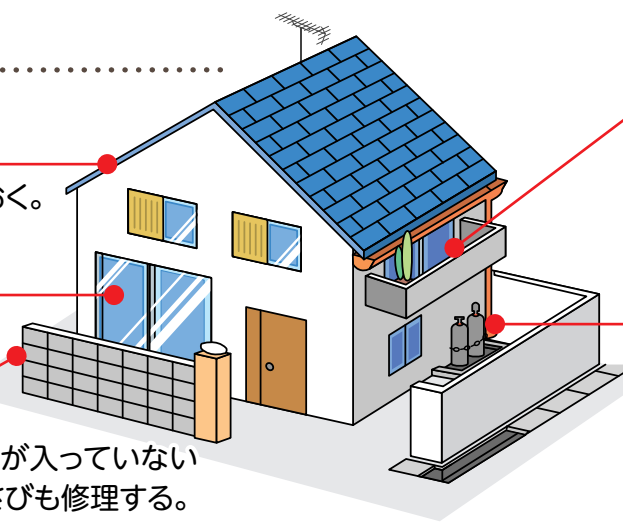
土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

□ ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

□ プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。



防災
チェック
ポイント

地震に強い家をつくろう

【問合せ先】市役所建設課 都市計画建築係 0974-22-1140

市では、住宅の耐震化や危険ブロック塀等の除却にかかる費用の一部を補助しています。

- ①旧耐震基準(昭和56年5月31日以前)で建築された2階以下の木造住宅(木造のアパート含む)の耐震診断費用及び耐震改修費用の一部
- ②危険なブロック塀等の除却にかかる費用の一部

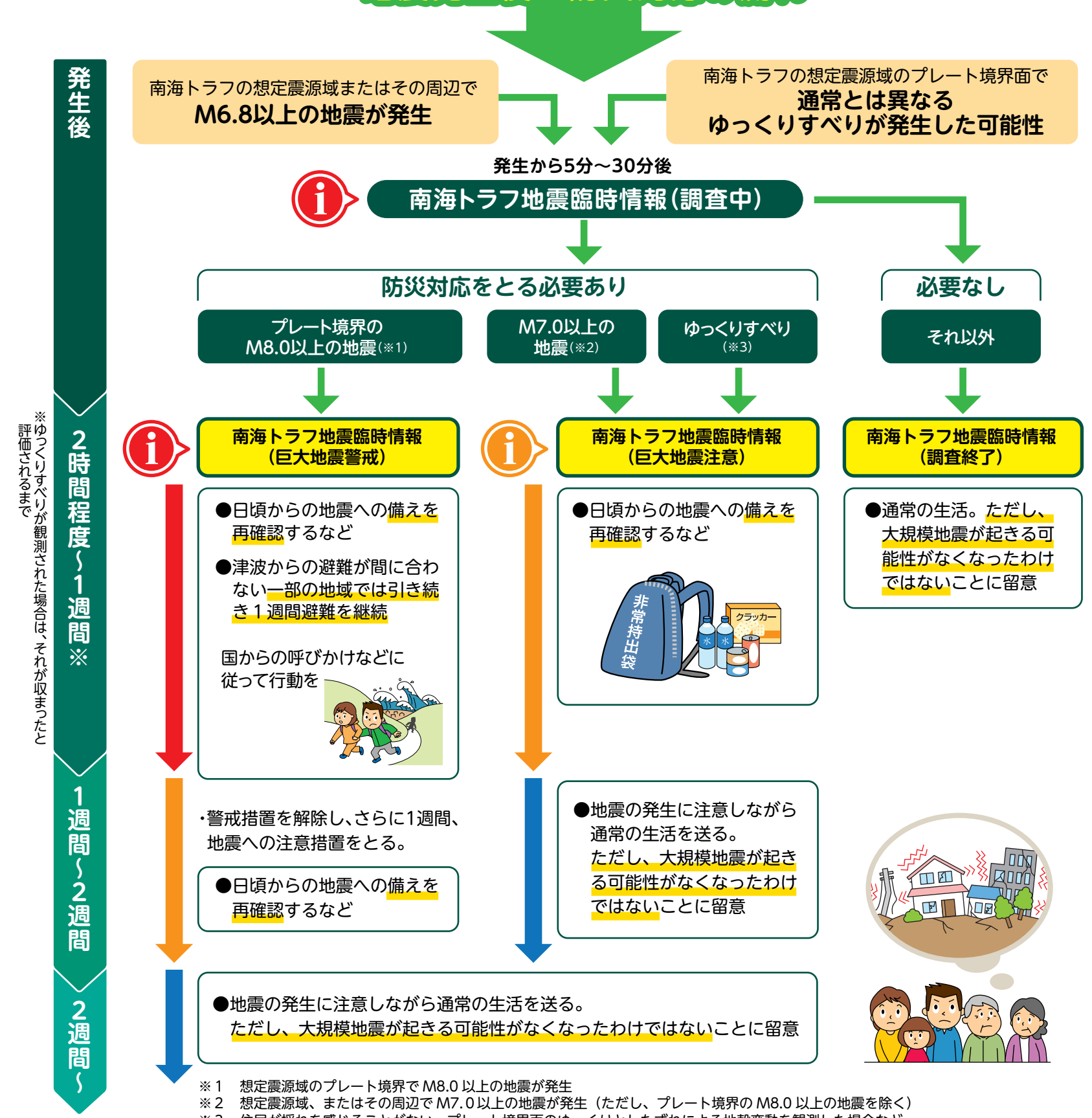


南海トラフ地震臨時情報とは

南海トラフ地震臨時情報は、南海トラフ地震の想定震源域内で異常な現象が観測され、地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価された場合などに気象庁から発表される情報です。南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)などが発表された場合には、1週間程度は、日頃からの地震への備えの再確認に加え、特別な備え(すぐに逃げられる態勢の維持や非常持ち出し品の常時携帯など)を行い、必要に応じて自主的に避難を行いましょう。南海トラフ地震臨時情報(調査終了)が発表されたあとも、大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意し、地震の発生に注意しながら通常の生活を行いましょう。

南海トラフ地震が発生したら…

地震発生後の防災対応の流れ



台風や集中豪雨によって、様々な被害が起こっています。天気予報により事前の情報を得ることはできますが、自然の猛威を止めることはできません。自らの身を守るためには台風や集中豪雨に備えて、準備や対策を行うことが大切です。

●台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさの階級	風速15m/秒以上の半径	強さの階級	最大風速
大型(大きい)	500km以上~800km未満	強い	33m/秒以上~44m/秒未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/秒以上~54m/秒未満
		猛烈な	54m/秒以上



●風の強さと吹き方

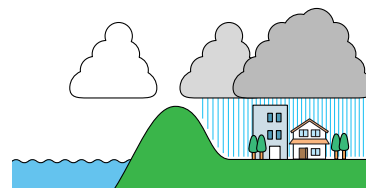
やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風
10m/秒以上~15m/秒未満	15m/秒以上~20m/秒未満	20m/秒以上~30m/秒未満	30m/秒以上~
風に向かって歩かなくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	何かにつかまっていなくて立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	屋外での行動は極めて危険。多くの樹木が倒れる。

●雨の強さと降り方

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量 10mm以上~20mm未満	1時間雨量 20mm以上~30mm未満	1時間雨量 30mm以上~50mm未満	1時間雨量 50mm以上~80mm未満	1時間雨量 80mm以上
ザーザーと降り、雨の音で話し声が良く聞き取れない。この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。	どしゃ降り、傘をさしていてもぬれる。ワイパーを速くしても見づら。側溝などがあふれる。	バケツをひっくり返したように降り、道路が川のようになる。危険地帯では避難の準備が必要。	滝のように降り、傘は全く役に立たなくなる。土石流が起これやすい。多くの災害が発生する。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。大雨による大規模な災害が発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。

●線状降水帯

「線状降水帯」とは、数時間にわたって発達した雨雲(積乱雲群)がほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ 50~300km 程度、幅 20~50km 程度の強い降水をとまなう雨域を意味します。ひとたび「線状降水帯」が発生すると、わずか数時間で災害発生危険度が急激に高まる場合があります。気象情報に十分注意し、「線状降水帯」に関する情報が発表されたら、ただちに身を守る行動をとってください。



防災対策の事例

- テレビやラジオなどの気象情報に注意する。
- 家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 市や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え、懐中電灯や携帯ラジオなどを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常持ち出し品を準備しておく。
- 危険な地域にお住まいの方は、いつでも避難できるよう準備をする。

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことで、梅雨の終わりごろによく起こります。狭い地域に限られ突発的に降るため、その予測は非常に困難です。気象情報や災害の前兆現象から危険レベルを判断し、行動することが重要になってきます。

集中豪雨の危険を知っておこう

◆短時間で危険な水位

河川、溪流、下水管、用水路などは、激しい雨が降ることやまわりから雨が流れ込むことで、数分から数十分で危険な状態になります。



◆注意報や警報が出ない雨でも災害が発生する

大雨や洪水の注意報・警報の発表基準に達していないわずかな雨でも、災害が発生するおそれがあります。



◆離れた場所の雨でも影響する

自分のいる場所で強い雨が降っていても、上流で降った雨が流れてきて、危険な状態になる場合があります。



こんな前兆を確認したらすぐに避難

- 1 川の近くでは、まわりの空が真っ黒になったらすぐに避難する
- 2 雷鳴や稲妻を確認したら建物内へ避難する
- 3 冷たい風が吹き出したら注意する
- 4 大粒の雨やひょうが降り出したら建物内へ避難する
- 5 雨の日に周囲より低い位置にいる場合は、高い場所へ移動する
- 6 川の近くでは警告のサイレン音がしたらすぐに避難する



大雨による川のはん濫

雨量の増加によってもたらされる「はん濫」には、川から水があふれたり、堤防が決壊して起こる「外水はん濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水はん濫」の2タイプがあります。

外水はん濫

大雨によって、河川を流れる水が大幅に増え、堤防が決壊したり、堤防から水があふれ出す現象です。



内水はん濫

排水能力を超える多量の雨が降り、排水が追い付かず土地や建物水がに浸かる現象です。



車での避難はここが危ない!

大雨が降っているときは、路面冠水に遭遇する危険性があります。

想定される危険

◆激しい雨で前が見えなくなる
大雨時はどれだけ車のワイパーを動かしても、前が見えなくなってしまうことがあります。

◆路面冠水の危険

路面冠水で車のエンジンが停止することがあります。空ぶかしをしてマフラーからの浸水を防ぎましょう。

◆車から出られなくなる

浸水中の車は、水圧でドアが開かなくなり、また、60~70センチまで浸水すると車が浮き始めます。

避難のポイント

◆徐々にスピードを落とす
雨で視界が悪い場合、急停車せず、ゆっくりと減速する。

◆エンジンが止まってもあわてない
エンジン保護のため再始動せず、感電防止のため車のキーをオフにする。

◆ガラスを割って脱出する
万が一に備えて、特殊ハンマーを車内に常備し、あわてずにできるだけ早く窓を割って脱出する。



風水害 危険判断能力を高める

風水害を最小限に抑えるためには、まず風水害に対する正しい知識が必要です。あわせて住まいがある場所で水害や土砂災害などが発生したら、どのような状況になるのかを把握しておかなければなりません。風水害に関しては、数多くの気象情報が発表されています。市ではそれらを参考にして避難指示など避難に関する情報を発令します。これらの情報をもつ意味なども理解しておき、いざというときに備えましょう。

大雨注意報、警報、特別警報の発表のめやす (詳細はP3に)

大雨注意報 災害が起こるおそれのあるときに注意を呼びかけて行う予報	大雨警報 重大な災害が起こるおそれのあるときに警戒を呼びかけて行う予報	大雨危険警報 特に強い雨が予想され土砂災害や洪水の危険がある場合	大雨特別警報 台風や集中豪雨により、数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合
---	---	--	---

自宅周辺の災害危険度を知っておきましょう

防災マップを確認しましょう

防災マップとは、地域における災害の危険度を示した地図です。例えば、浸水想定区域は、予想される浸水深の程度に応じて危険度を色分けし、表示しています。防災マップを確認して、自宅付近がどの程度の危険度になっているのか知っておきましょう。

ただし、防災マップに記載された情報は、「特定の想定」に基づく被害予測です。東日本大震災で明らかになったように、想定を上回る被害が出るおそれは十分にあります。防災マップを活用して防災意識を高めることは重要ですが、頼り切ってしまうのは危険です。いざというときに自ら危険を判断できる能力を養うことが本当の防災対策です。

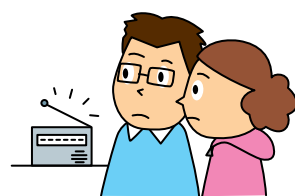
過去の風水害履歴を調べましょう

過去に水田や湿地だった場所、河川の近く、低地などは浸水被害を受けやすいことは容易に想像できます。斜面の近くでは、がけ崩れなどのおそれもあるでしょう。こうした災害は繰り返し発生します。地域の歴史を図書館で調べるなどして確認してみましょう。地域によっては、風水害が多いことが地名に残っている場合もあります。

洪水における避難のポイント

！ 浸水が始まる前に早めの避難を

はん濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となる。浸水してからの自宅外へ避難は危険。
気象予報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自主的に避難を開始する。



！ 状況に応じた避難を

周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難する。移動途中であっても、危険を感じた場合は、近隣の建物のできるだけ高い階に退避する。



！ やむなく浸水の中を歩く際は

裸足、長靴は厳禁。水中で脱げづらい紐靴などが適している。また、はん濫水は濁っているため、水面下が確認できない。長い棒などを杖替わりとし、側溝やマンホール、障害物に注意する。



！ 川や用水路に近づかない

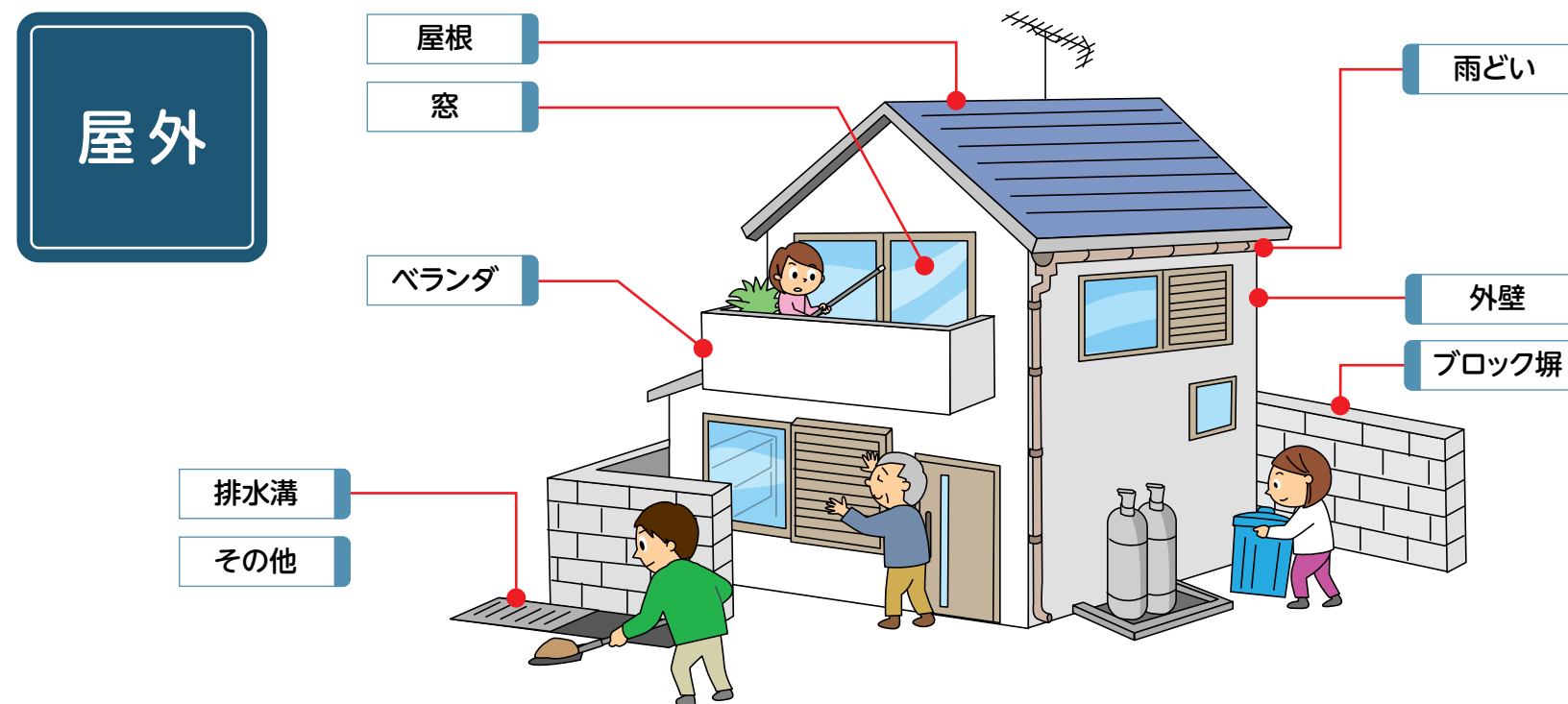
降雨が続き不安に思っても、川や用水路、田畑の様子は見に行かない。やむを得ない場合は複数人で行動する。河川の様子の確認は、ライブカメラ情報を活用する。また、避難の途中も増水した川の近くを通ることは避ける。



風水害 屋内・屋外の風水害対策

台風や集中豪雨によって、様々な被害が起こっています。天気予報により事前の情報を得ることはできますが、自然の猛威を止めることはできません。

自らの身を守るためには台風や集中豪雨に備えて、準備や対策を行うことが大切です。



● 屋根

- アンテナは不安定ではないか
- トタンがめくれていないか
- 瓦のひび割れ、はがれはないか

● 窓

- 窓枠のがたつきはないか
- 雨戸のがたつきはないか

● 外壁

- 壁に亀裂はないか

● ベランダ

- 植木鉢や物干し竿など、落下や飛散の危険があるものはないか

● 雨どい

- 雨どいに落ち葉などがつまっていないか
- 継ぎ目ははずれや塗装のはがれ、腐りはないか

● 排水溝

- 排水溝にごみや土砂が詰まっているか

● ブロック塀

- ブロック塀はくずれそうになっていないか

● その他

- 商店などでは看板のぐらつきがないか
- ごみ箱や植木鉢などは室内に入れるか、飛ばないように固定しているか
- 庭木には添え木をしているか
- プロパンガスのボンベは鎖でしっかり固定されているか

屋内

台風や大雨が近づいてきたら

- 停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオを準備する。
- 避難に備えて貴重品などの非常持ち出し品を準備する。
- 気象情報をテレビ・ラジオで注意深く聞く。
- 断水などに備えて、飲料水などを確保しておく。
- むやみに外出しない。
- 浸水などのおそれがあるところでは、家財道具や食料品、衣類、寝具などの生活用品を2階などの高い場所へ移動させる。
- 高齢者や乳幼児、病人などを安全な場所へ避難させる。



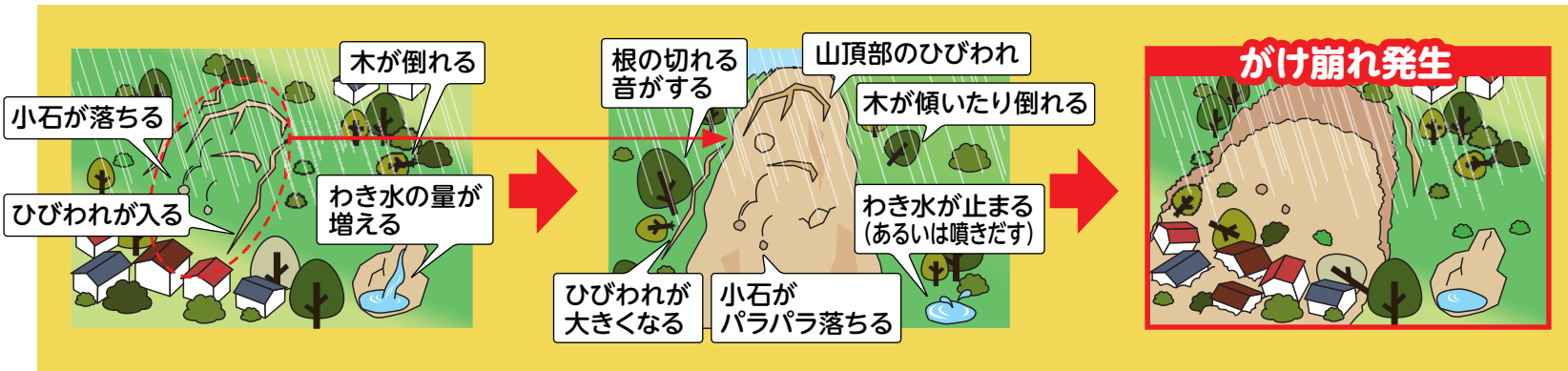
土砂災害

種類と前兆現象

土砂災害危険警報(警戒レベル4)が発表されていなくても、普段と異なる状況(土砂災害の前兆)に気づいた場合には、ただちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。また、日ごろから危険箇所や避難所、避難場所、避難経路を確認しておくことも重要です。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



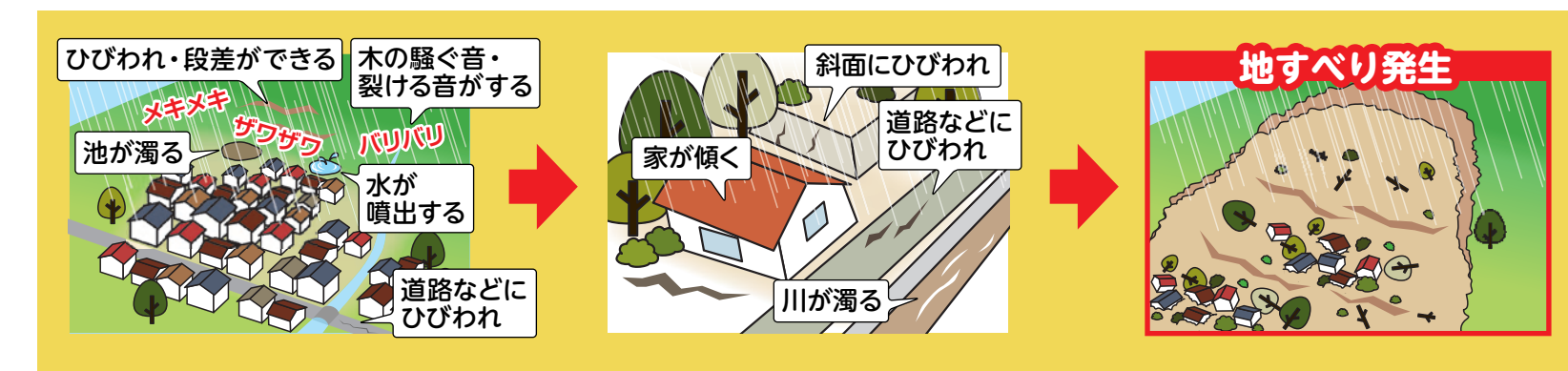
土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるといえるものではありません。普段と違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

前兆現象を知り早めに避難

土砂災害の発生前には、前兆現象がみられることがあります。前兆現象を知ったときは、ただちに避難しましょう。



土砂災害

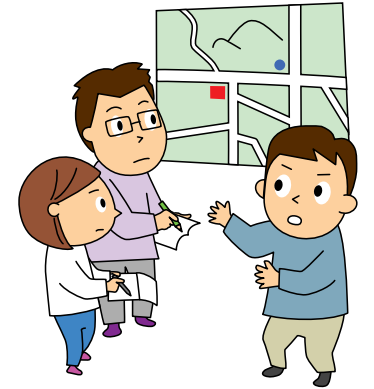
避難のタイミングとポイント

令和6年には全国で1,433件の土砂災害が発生しています。土砂災害は長雨や集中豪雨、地震などの後に発生しやすく、発生すれば人命に関わる災害になるので警戒が必要です。

早めの避難

土砂災害は、突発的に発生し、すさまじい破壊力で一瞬にして生命や財産を奪ってしまいます。土砂災害の発生を予測するのは難しいものですが、前兆現象が見られる場合があります。身近に土砂災害の危険箇所があり、前兆現象を確認した場合は、ただちに避難しましょう。

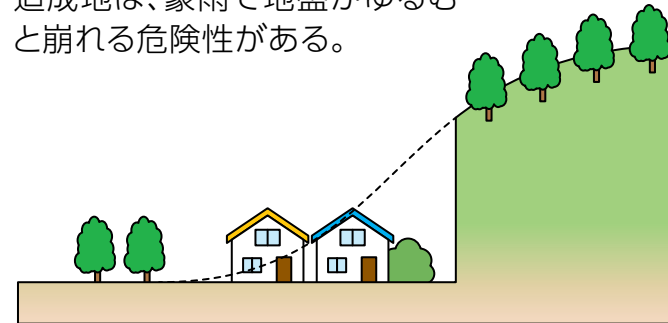
また県は、土砂災害のおそれがある区域を「土砂災害警戒区域」に、さらにそのなかでも建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれのある区域を「土砂災害特別警戒区域」に指定しています。住まいがある土地が警戒区域に入っていないか確認しておき、家が該当区域にある場合は特に早めに避難するようにしてください。



こんな場所では早めの避難を

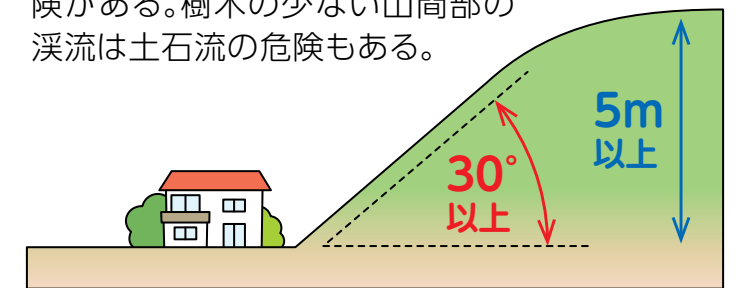
造成地

丘陵を切り崩してつくられた造成地は、豪雨で地盤がゆるむと崩れる危険性がある。



傾斜地

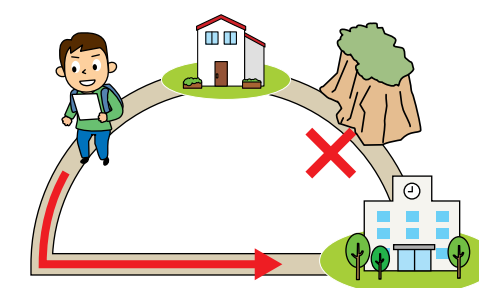
傾斜30度以上、高さ5メートル以上の急傾斜地は、がけ崩れの危険がある。樹木の少ない山間部の溪流は土石流の危険もある。



避難行動の注意点

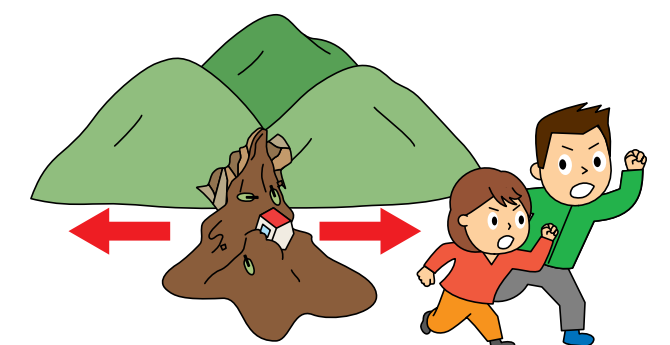
◆ほかの土砂災害危険区域は通らない

避難する際は、ほかの土砂災害危険区域は通らないようにしましょう。



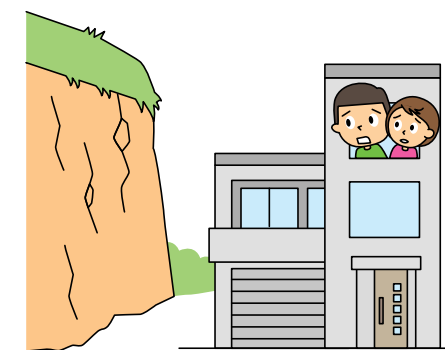
◆土石流に直面したときの逃げ方

土石流のスピードは、20~40キロと非常に速く、流れに背を向けて逃げても、追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向に対して直角に走って逃げましょう。



◆避難の余裕がないときの命を守るための最低限の行動

比較的高い鉄筋コンクリート造などの堅固な建物の2階以上の、斜面とは反対側に位置する部屋に避難しましょう。



火災 被害を最小限に

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

初期対応の3原則

1. 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2. 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近なものを活用する。

3. 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、すみやかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。



覚えておこう! 火元別の消火方法

●コンロ

- 油鍋に水をかけるのは厳禁。
- 消火器は離れた位置から、鍋の全面を覆うように向けて噴射する。
- 消火器がない場合は、シーツやバスタオルをぬらして手前からかぶせ、空気を遮断する。

●衣類

着衣に火がついたら、転げまわって火を消す。風呂場に残り湯があれば、浴槽に飛び込む。

●電気器具

いきなり水をかけると感電の危険があるので、コンセントから抜くかブレーカーを切り、消火器で消火する。

●ストーブ

- 消火器は直接火元に向けて噴射する。
- 消火器がない場合は、シーツや毛布などをぬらして手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。

●たばこ

寝たばこなどにより、布団などの綿製品が焦げた場合は、消したつもりでも見えないところに火種が残り、再び燃えだすことがあるので、浴槽などにつけ完全に消す。

●カーテン・ふすま・障子

- カーテンは燃え広がる前に水をかける。できればレールから引きちぎり消火する。
- ふすまや障子などはけり倒して、踏み消す。その後、水をかけてしっかり消火する。

●たき火

- 消火器を使う。消火器がない場合は水や土で消す。
- 水の準備ができていない場合は、ほうきや木の枝でたたいて消し、その後、水でしっかり消火する。

覚えておこう! 消火器の使用方法

粉末・強化液消火器の場合



安全ピンに指をかけ上に引き抜く → ホースをはずして火元に向ける → レバーを強く握って噴射する

消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。炎にはまともに正対しないように。
- やや腰を落として姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



火災 避難と予防

もっとも大切なのは、身の危険を感じたときに一刻も早く避難することです。服装や持ち物などにこだわらず、次のポイントを押さえながら、できるだけ早く避難してください。また、一度逃げ出したら、絶対に戻らないようにしましょう。

避難ポイント

●2階から脱出するときは

ロープや縄ばしごを使って避難する。シーツやカーテンをつないだものでも代用できる。やむを得ず飛び降りるときは、布団やマットレスなどクッションになるものを落とす。

●ビルにいるときは

上の階から出火した場合は、階段を使って下へ逃げる。下階から出火した場合は、外階段から逃げる。もし下へ逃げられないときは、屋上の風上側で救助を待つ。エレベーターは絶対に使わない。

●炎の中を通るときは

迷わずに一気に走り抜ける。ぬらしたシーツを体全体に巻きつけると効果的。

●閉じ込められたときは

ドアのノブが熱い場合、廊下は高温状態の危険性もある。危険な場合はドアから出ず、ぬらしたタオルなどをドアのすき間などに埋めて防御し、窓を開けて逃げ遅れたことを外の人に知らせる。

防災チェックポイント

本当に恐ろしいのは煙です!

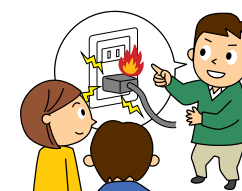
火災で発生する煙には、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれています。吸い込むと中毒などにより命を落とす危険性があるので、次のポイントに気をつけながら避難しましょう。

- ぬらしたタオルやハンカチなどで、口と鼻を覆う(無理な場合は、ネクタイや衣類で代用する)。
- 短い距離なら息を止め、一気に走り抜ける。
- できるだけ姿勢を低くする。
- 視界が悪いときは壁づたいに避難する。



覚えておこう! 火元別の予防と対処

ほとんどの火災は、私たちが注意することで防ぐことができます。火災を防ぐためのポイントをきちんと学び、日ごろからみんなで注意し合うようにしましょう。



●コンセントからの出火

コンセントからの出火は日ごろの予防で防ぐことができます。ほこりやゴミがたまっていたり、多くのプラグが差し込まれていると発火の原因となります。定期的な掃除を行い、多くのプラグ差し込みをやめましょう。

●たばこからの出火

灰皿にすいがらがたまっていると消したつもりでも火種が残っていることがあります。火の始末は確実にしましょう。また寝たばこは絶対にやめましょう。

●ストーブからの出火

火がついた状態で動かしたり、洗濯物・紙などの燃えやすい物が近くにあると出火の原因になります。スプレー缶なども熱せられると爆発の危険性があるので近づけないようにしましょう。

●金魚ばちなどからの出火

太陽光線があたって、金魚ばちやペットボトルがレンズになって出火することがあります。このようなレンズの役目をする物は、置き場所に十分注意しましょう。

●コンロからの出火

- てんぷらなどの揚げ物を調理する場合、油に火が付くことがあります。また、鍋の空焚きによる出火も多くみられます。調理する場合は少しの間でも目を離さないようにしましょう。
- 出火した場合には水を掛けて消火するのではなく、必ず消火器で消しましょう。

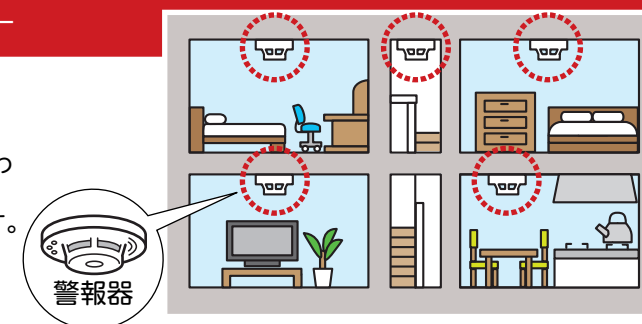
火災予防が一番!! —住宅用火災警報器の設置義務化—

消防法により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

火災警報器の設置場所

- 寝室…すべての寝室(子ども部屋や老人の居室など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台所…台所への設置もおすすめします。

住宅用火災警報器は、設置して約10年が交換の目安です!



林野火災 注意報・警報

令和8年1月1日より「林野火災注意報・警報」の運用が始まりました。注意報・警報発令時には「火の使用の制限」に従う義務が課せられる場合があります。発令状況や発令基準など詳細は市ホームページで確認できます。



原子力災害とは、原子力施設から放射性物質が漏れ、周辺に被害が生じることをいいます。放射性物質とは放射線を出す物質のことで、放射線を出す能力を放射能といいます。原子力災害の程度は人間が感じ取ることができないため、放射性物質に関する基本的な知識と正しい対処法を身につけることが重要です。

原子力防災対策の必要性

●市民のみなさんの安全・安心を守るため、万一の事故に備えて、原子力防災に取り組んでいます。

大分県は、国の定める「原子力災害対策が重点的に講じられる区域(原子力施設から概ね30キロメートル圏内)」外にありますが、万一の場合に備え、重点区域に準じて、必要な対策が執れる体制を整えています。



情報収集のポイント

●正確な情報を入手してください

原子力施設で事故などが発生した場合、自治体などはテレビ・ラジオなどの報道機関を通して、住民に必要な情報をすみやかに知らせます。

一時移転や避難の指示がでたら

一時移転や避難の指示が出たら、まず指示の内容をよく確認し、あわてず落ち着いて行動してください。また、どこの区域の人たちが対象か、一時集合場所はどこか、いつ集まるのかなどについて正しく情報を把握しましょう。

●貴重品を持って、持ち物は最小限に抑え、帽子・ヘルメットや上着、長ズボンを着用する(体表面の露出をできる限り少なくすることがポイント)。



●戸締まりを忘れずに。
●家に避難先や安否情報を書いたメモを残す。



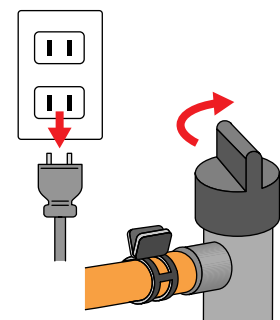
●音声告知放送などの情報に注意する。



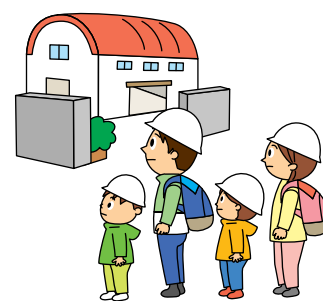
●デマに惑わされないようにする。



●ガスの元栓を閉め、電気器具をコンセントから抜く。



●近所にも声をかけて、徒歩で一時集合場所に集まる。



防護対策とは、放射線や放射性物質が大量に放出された際に、周辺住民などの被ばくをできるだけ低減するために講じられる措置です。住民が受けると予想される線量が一定の指標を超えるような場合に、「屋内退避」「一時移転」「避難」といった指示が出ます。

防護対策が必要になります

防災
チェック
ポイント

外部被ばく、内部被ばくから身を守る

外部被ばくから身を守るには…

- 距離による防護 …… できるだけ遠くに離れる。
- 遮蔽による防護 …… コンクリートなどの建物の中に入り、放射線をさえぎる。
- 時間による防護 …… 放射線を受ける時間を短くする。

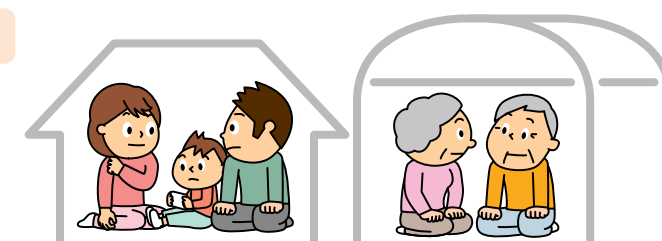
内部被ばくから身を守るには…

- 吸引防止 …… マスクやハンカチで口をふさぐ。
- 摂取防止 …… 汚染された水や食べ物をとらない。

屋内退避について

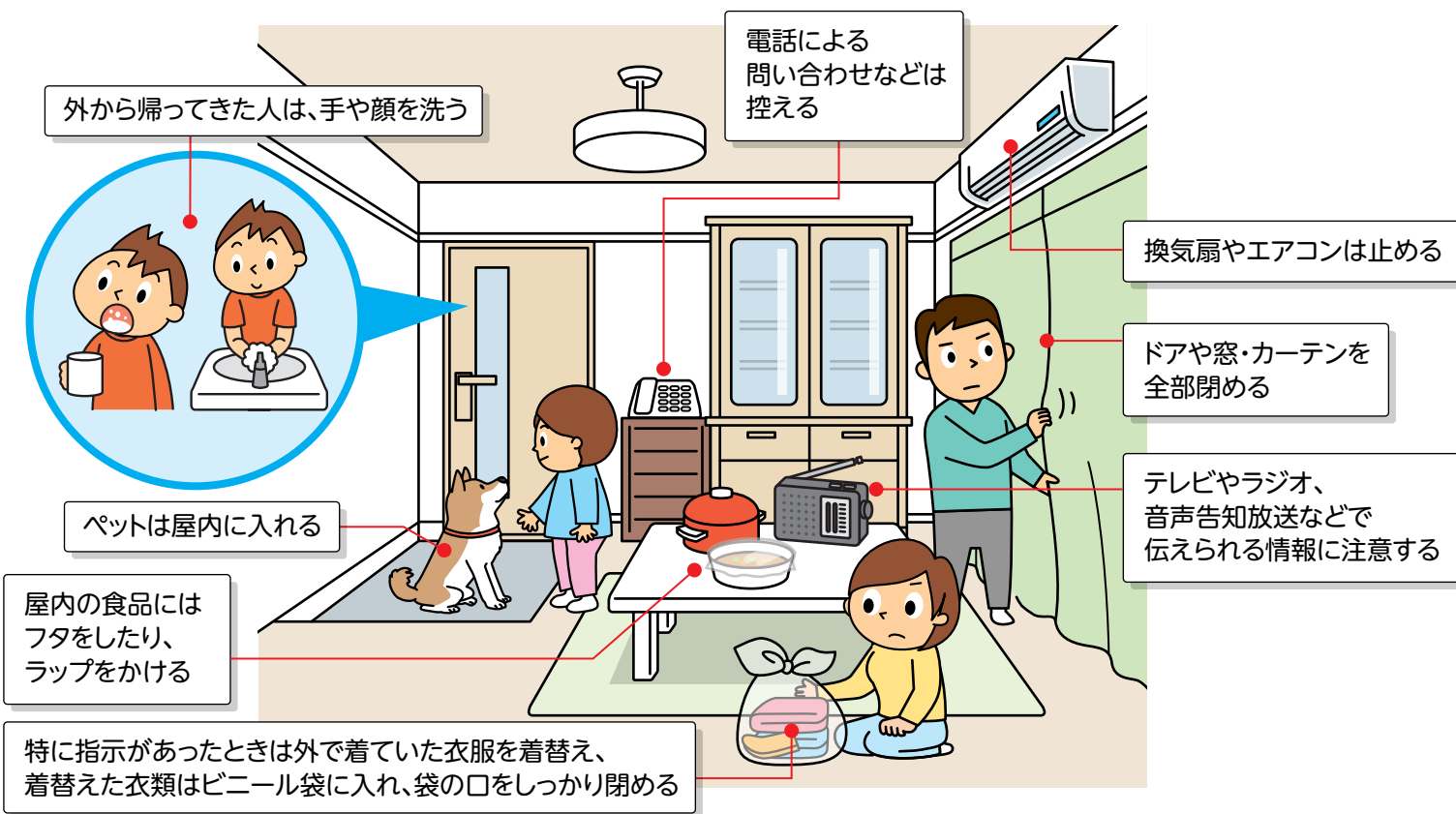
●室内退避の効果

屋内に退避すると、屋根や壁で放射線をさえぎることができます。屋内退避には、自宅など一般家庭に入るものと、学校などのコンクリート建屋の中に入るものがありますが、予測被ばく線量が小さい場合には一般の木造家屋への退避でも放射線の影響を十分に軽減することができます。コンクリート建屋は木造家屋よりも放射線をさえぎる能力が高く、より高い防護効果が期待できます。



●室内退避で取るべき行動

屋内退避の指示が出たら、すみやかに自宅などの建物内に入り、ドアや窓を閉めて次の対策を取ってください。



●一時移転と避難について

避難 空間放射線量率の高い又は高くなるおそれのある地域から速やかに離れるために実施するもの

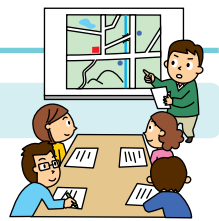
一時移転 空間放射線量率は低い地域であるが、日常生活を継続した場合の無用の被ばくを低減するため、一定期間のうちに当該地域から離れるために実施するもの

平常時と災害時における自主防災組織の役割としては、次のようなことが考えられます。いざというときに組織力を発揮できるよう、平常時からみんなで協力し合いながら防災活動に取り組みましょう。

平常時の活動

● 防災意識の普及

防災マップの作製、防災講習会・映画上映会の開催、地域のお祭りや運動会などでの防災イベントの実施など。



● 防災巡視・防災点検

各家庭の防災用品の点検、防災倉庫の備品や消防水利の確認、燃えやすいものの放置状況、ブロック塀や石垣、看板、自動販売機など、倒れやすいものの点検など。



● 防災資機材の整備

ヘルメット、消火器、担架、ハンマー、バール、大型ジャッキなどの作業道具、非常食品、救急医薬品などの防災資機材の整備や備蓄品の管理など。



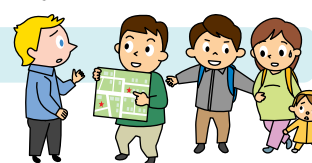
● 防災訓練の実施

避難所開設・運営訓練、避難誘導訓練、初期消火訓練、応急救護訓練、情報収集・伝達訓練、給食（炊き出し）訓練など。



● 災害時要配慮者対策

災害時要配慮者の把握・見守り、担当者の確認など。



防災
チェック
ポイント

自主防災組織はなぜ必要なのか

自主防災組織とは、地域住民が連携し防災活動を行う組織のことをいいます。日ごろは、防災知識の普及啓発、防火訓練や地域の防災安全点検の実施、防災資機材の整備といった活動に取り組みます。そして、いざ災害が起きたときには、避難所の開設・運営、住民の避難誘導、初期消火活動の協力などに従事します。

特に大地震のような大規模な災害時には、交通網の寸断、通信手段の混乱、同時多発の火災などで、自治体や消防、警察なども、同時にすべての現場に向かうことはできません。そのような事態に備え、地域住民が連携して地域の被害を最小限に抑えることが自主防災組織の役割です。あなた自身とあなたの町を守るために自主防災活動へ積極的に参加し、「災害に強いまち」をつくりあげましょう。

自主防災組織活動事業補助金

市では、自主防災組織の結成と、その活動を推進するため、自主防災組織が行う防災・減災活動（防災資機材や備蓄品の購入など）にかかる経費の一部を補助しています。詳しくは市ホームページをご覧ください。市役所までお問い合わせ下さい。



災害時の活動

避難所の開設・運営への協力

● 避難所の開設

避難所の開設、避難所施設の状況確認、避難者誘導・受け入れ、避難者の居住場所と業務の割り振りなど。



● 食糧・物資関係

備蓄食糧や救援物資などの避難所への運搬および配布、炊き出しなど。



● 避難誘導

地域住民などの安否確認、避難所への誘導、災害時要配慮者の安否確認・援助など。



● 衛生管理

水確保・トイレの清掃、ゴミの搬出保管、施設内の清掃など。



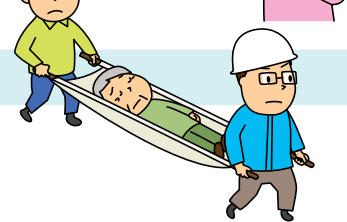
● 情報の収集・伝達

自治体などと連絡を取り合い、災害に関する正しい情報を住民に伝達する。



● 救出活動

負傷者や倒壊した家屋などの下敷きになった人たちの救出・救助活動など。



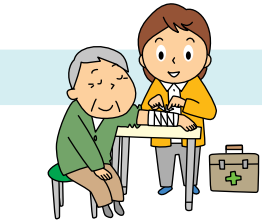
● 初期消火活動

出火防止のための活動や消火器、消防水利の確保、バケツリレーなどによる初期消火活動など。



● 医療救護活動

負傷者の応急手当て、救護所への搬送など。



災害が発生したとき、避難に時間がかかったり、自力で安全な場所へ避難することが困難な高齢者や障がいのある人（避難行動要支援者）がいます。このような人が災害時に地域の中で支援が受けられるように名簿を作成し、本人の同意を得たうえで、必要な支援内容などの情報を自治委員や民生委員など（避難支援関係者）に提供しています。こうした避難行動要支援者を災害から守るために、普段の見守りなど、地域で協力し合いながら支援していきましょう。

避難行動要支援者の特性

- 1 災害の危険を察知することが困難である。
- 2 自分の身に危険が差し迫っていても、支援者に助けを求めることができない、もしくは困難である。
- 3 危険を知らせる情報を受け取ることや正しく理解することができない、もしくは困難である。
- 4 危険を知らせる情報を受け取っても、それに対応して行動することができない、もしくは困難である。

避難行動要支援者を守りましょう

平常時には

日ごろから地域の人たちと避難行動要支援者が交流し協力して、避難行動要支援者の支援体制をつくる必要があります。

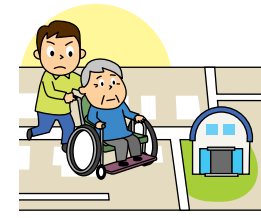
1 防災訓練への参加

避難行動要支援者と一緒に避難経路や避難所が確認できます。また、避難時に避難行動要支援者がどのような支援が必要になるのかを知ることができます。



2 避難行動要支援者の身になって防災環境を点検する

放置自転車などの障害物はないか、耳や目の不自由な人や外国人向けの警報や避難の伝達方法はあるかなど、避難行動要支援者に対応した環境づくりをしましょう。



3 日ごろから積極的なコミュニケーションを図る

避難時の支援活動をスムーズにするためには、避難行動要支援者とのコミュニケーションを日ごろから図っておくことが大切です。



災害時には

避難行動要支援者は、一人では身の安全を確保することが困難です。災害時、地域の人は積極的に声をかけて、手助けしましょう。

1 避難するときはしっかり誘導する

一人の避難行動要支援者に対して複数の住民で支援するなど、地域で具体的な体制を決めておきましょう。隣近所で助け合いながら避難するようにしてください。



2 安全に避難できるように支援する

目ที่ไม่自由な人には、階段や障害物を説明しながら進みましょう。耳が不自由な人には、身ぶりや筆談などで正しい情報を伝えましょう。避難行動要支援者が安全に避難できるよう支援しましょう。



3 困ったときこそ温かい気持ちで

非常時にこそ、不安な状況に置かれている人の立場に立ち、支援する心構えを。困っている人や避難行動要支援者に対し、温かいおもいやりの心で接しましょう。



防災士について

防災士とは、「自助」「共助」「協働」を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを日本防災士機構が認証した人のことを言います。

● 防災士の役割

防災士は民間の資格のため、災害時の活動に権限や責任はなく、あくまでも個人の意思によるボランティア活動になります。防災に対する知識を高め、志と使命感をもって活動することが期待されています。災害時には防災リーダーとして自発的にボランティアに取り組み、自治体やボランティアの方々と協働して活動していきましょう。

● 平常時に期待される防災士の行動

- ・地域・企業・団体での防災啓発活動、救急救命知識の普及活動
- ・防災訓練・避難訓練などの企画・開催
- ・防災計画の立案など

● 災害時に期待される防災士の行動

- ・地域での避難誘導・救助活動などの率先行動
- ・避難所の運営・手伝い
- ・ボランティアなどの団体との協働など



より詳しい内容は「認定特定非営利活動法人 日本防災士機構」のHPよりご確認ください。

突然の災害では、どういう事態が発生するか誰にも予測できません。けが人が出ても、公的救急機関がすぐに駆けつけられるとは限りませんし、ライフラインもすぐには復旧できないでしょう。そうした場合、重要となるのが事前の知識と備えです。万が一のときにすぐに対処ができるよう、応急手当の方法を覚えておきましょう。

心肺蘇生法の仕方を覚えよう ※感染症に注意して行うこと

人が倒れているときは、一刻を争う場合があります。まずは倒れている人の肩を軽くたたきながら呼びかけ、すばやく状態を観察しましょう。意識がない場合にはすぐに心肺蘇生法を行うと同時に、大声で協力してくれる人を求め、救急車を呼びましょう。

1 反応があるかを確認する



反応がなければ、大きな声で助けを求め。その際、119番通報とAEDの手配を依頼する。

2 反応がないときは、呼吸を確認する



傷病者の胸と腹部を見て、上がった下がったりしていれば「呼吸あり」。動いていなければ「呼吸なし」(心停止)と判断し、すぐに胸骨圧迫を行う。

3 胸骨圧迫を行う

- 傷病者の横に向ひざ立ちになる。
- 胸の真ん中に片方の手のつけ根を置き、他方の手をその上に重ねる。
- ひじを伸ばし、胸を5センチ圧迫する。
- 1分間に100回の速さで圧迫し、これを30回繰り返す。



感染防止のために

- 自分のマスクがあれば着用しましょう。
- 意識や呼吸の確認は、倒れている人の顔と応急手当を行う方の顔があまり近づきすぎないようにします。呼吸の確認は、胸とお腹の動きを見て行います。
- 胸骨圧迫を開始する前に、倒れている人の口と鼻に、布やタオル、マスクがあればかぶせましょう。
- 応急手当を行う方が複数いれば、一人は部屋の窓を開けたりして、室内の換気しましょう。

倒れている人が大人の場合

胸骨圧迫のみを行い、人工呼吸は行わないでください。

倒れている人が子どもの場合

人工呼吸の訓練を受けており、それを行う意思がある家族等は、胸骨圧迫に加えて人工呼吸を行います。人工呼吸用マウスピース(一方向弁付)等があれば、活用しましょう。

救急隊に引き継いだ後は

- 口元にかぶせた布やタオル、マスクなどは、直接触れないようにして廃棄しましょう。
- 石けんを使い、手と顔をしっかりと洗いましょう。
- うがいしましょう。

AEDの使い方

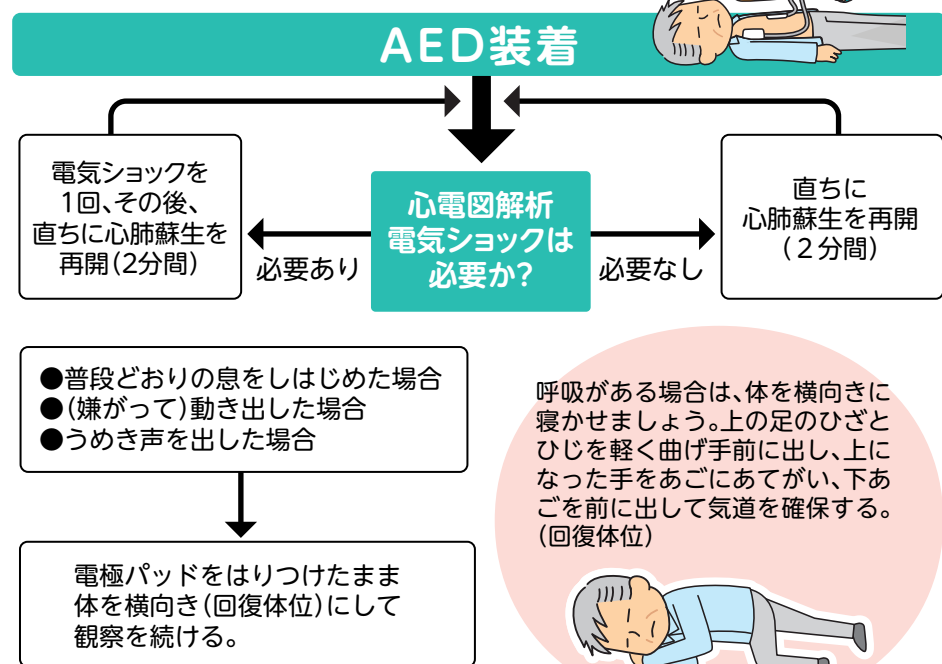
AED(自動体外式除細動器)が到着したら、傷病者に装着し、AEDの指示に従って操作してください。

現場にAEDがある場合は、AEDを優先的に使用しましょう。

- AEDとは、心停止状態にある心室細動を電気ショックによって除去(除細動)し、心臓を正常な状態に戻す装置です。
- 自動的に傷病者の心電図を解析し除細動の必要性を判断したうえで、音声メッセージにより必要な処置を指示します。
- 心停止から5分以内の除細動の実施が、心停止状態の傷病者の蘇生・社会復帰の確率を高めます。救急現場にAEDがある場合には、立ち着いてAEDを使いましょう。

防災チェックポイント

- AEDは2分おきに自動的に心電図解析を始め、そのつど「体が離れてください」などの音声がかかります。傷病者から手を離し、周囲の人にも離れるよう声をかけてください。
- 「ショックは必要ありません」のメッセージを、「心肺蘇生をやめてもよい」と誤解しないようにしてください。



応急手当のポイント

●出血

- 出血部分にガーゼやタオルを当て、その上から手で圧迫する。
- 傷口は心臓より高い位置にする。
※感染を防ぐため、ビニール手袋やビニール袋を使用するのが望ましい。

●やけど

- 流水で冷やす。
- 衣服の上からやけどをした場合は、無理に脱がさずそのまま冷やす。
- 水疱(水ぶくれ)は破らない。
- 冷やした後は消毒ガーゼかきれいな布で保護し、医療機関へ。

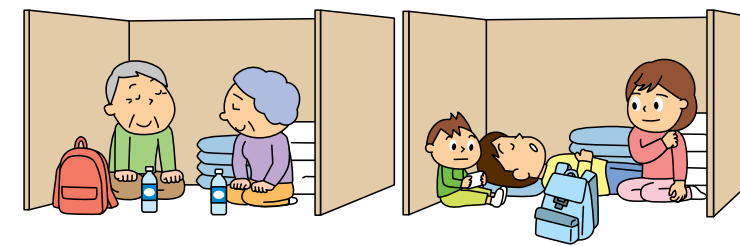
●骨折・ねんざ

- 折れた部分やねんざした部分に添え木を当てて固定し、医療機関へ。
- 適当な添え木がなければ、板、筒状にした週刊誌、傘、段ボールなど身近にあるもので代用する。その上からテープでとめてもよい。

避難所で生活するのは大変不自由なことです。ストレスや疲労から体調を崩してしまうこともあります。また、避難所生活は共同生活となります。マナーとルールを守り、みんなで支え合いましょう。

共同生活

- 所持品は、1か所にまとめて、余震のときにはすぐに持ち出せるようにしておきましょう。
- 避難者同士がトラブルにならないためにも、所持品に名前を書いておきましょう。
- 自治組織をつくり、共同での生活ルールを守りましょう。



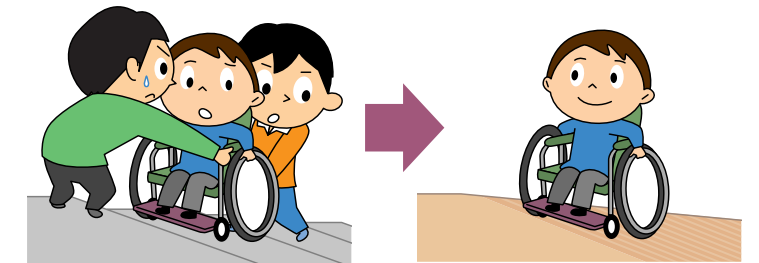
生活環境を衛生的に

- ゴミは所定の場所へ。
- トイレもきれいに使いましょう。
- 掃除などは定期的に行い、清潔な状態を保ちましょう。



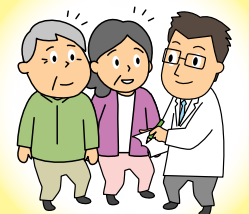
災害時要配慮者への配慮

- 障がいのある人や高齢者、妊産婦などには、手助けをしましょう。
- 車いすが通行できるよう、バリアフリー化をしましょう。
- おむつ交換や補装具交換が必要なときは、間仕切りやカーテンを設けるなどの配慮をしましょう。
- ちょっとした工夫と配慮で、みんなが生活しやすい環境をめざしましょう。



「避難所で過ごす」ということは

阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、能登半島地震などでは、長引く避難所暮らしが体力の弱い高齢者等の命を奪ってしまう悲劇が相次ぎました。避難している住民同士で助け合うことはもちろん、支援してくれる医師・看護師といった専門家や相談相手としてのボランティアなどを積極的に活用して、心身の健康を保つように努めましょう。



感染症対策

災害が発生した場合の避難所では、密閉した空間の中での集団生活などにより新型コロナウイルスをはじめ、インフルエンザや風邪などの感染症のリスクが高まる恐れがあります。

少しでも感染リスクを軽減するために次のことについて、地震や風水害発生時の避難に備えて平時から準備をお願いします。

●避難者の健康状態の確認

避難者の健康状態を確認するため、避難所に入られる際は、ご自宅での体温測定にご協力願います。なお、発熱、咳などの症状がある方は、かかりつけ医に相談し、可能であれば旅館やホテルなどでの避難も検討してください。

●親戚や知人の家、ホテル、旅館などへの避難の検討

避難時に、避難所が過密状態になることを防ぐために、可能な場合は親戚や知人の家、ホテル、旅館などへ避難することを検討しておいてください。

●手洗い、咳エチケット等の基本的な対策の徹底

避難者は頻りに手洗いをするとともに、咳エチケット等の基本的な感染対策を徹底しましょう。他の人と2m以上離れ、会話も必要最小限にしましょう。



●避難所の衛生環境の確保

避難者が共有する物品やスペースは定期的に、家庭用洗剤を用いて清掃するなど、避難所の衛生環境をできる限り整えましょう。

なお、避難所の備蓄品には限りがあります。水や食料品などに加え、自身の健康状態を確認するために体温計を持参するなど、可能な限り必要なものは持参してください。

防災情報の収集

災害時には、自分で積極的に情報収集することが大切です。自分の必要な情報を素早く入手できるように日頃から確認をお願いします。

市からの情報提供

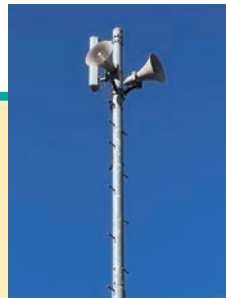
●音声お知らせ端末

避難情報や避難所開設状況などの緊急情報は最大音量で放送します。停電時に電池が切れていると放送されませんので定期的に点検・交換をしてください。



●防災行政無線 (屋外スピーカー)

避難情報やJ-ALERTなどの緊急情報の他に様々な行政情報も放送します。



●豊後大野市防災アプリ「@InfoCanal」

避難情報や避難所開設状況などの緊急情報をリアルタイムに文字で確認することができます。



インストールは
こちらから



【GooglePlay】



【Appstore】

●豊後大野市ホームページ (防災情報)

緊急時にはトップ画面に「重要なお知らせ」を掲載します。その他にもハザードマップや避難所一覧表など防災に役立つ情報も掲載しています。

<https://www.bungo-ohno.jp/categories/bousai/bousai/>



●豊後大野市ケーブルテレビ

災害時には画面にL字型で緊急情報を流します。



●豊後大野市 公式 LINE

防災情報や行政情報など、豊後大野市に関する様々な情報を提供しています。



●豊後大野市 公式 facebook

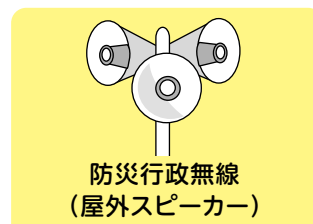
防災情報や行政情報など、豊後大野市に関する様々な情報を提供しています。

<https://www.bungo-ohno.jp/docs/2015021800063/>



命を守るために情報の収集に努めてください

テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。



防災情報の収集

アプリやインターネットで情報を入手

●大分県公式【おおいた防災アプリ】

豊後大野市をはじめ大分県内の防災情報がプッシュ通知で届きます。

- 【主な機能】
- マイ・タイムラインの作成機能
 - 避難所等検索マップ表示
 - 道路規制情報
 - 家族グループ機能 など



インストールは
こちらから



【GooglePlay】



【Appstore】

●豊後大野市ホームページ「防災マップ Web版」

お持ちのスマートフォンなどで災害危険箇所や避難所などを確認できます。豊後大野市ホームページからもご覧いただけます。

<https://www.bungo-ohno.jp/docs/2021033000049/>



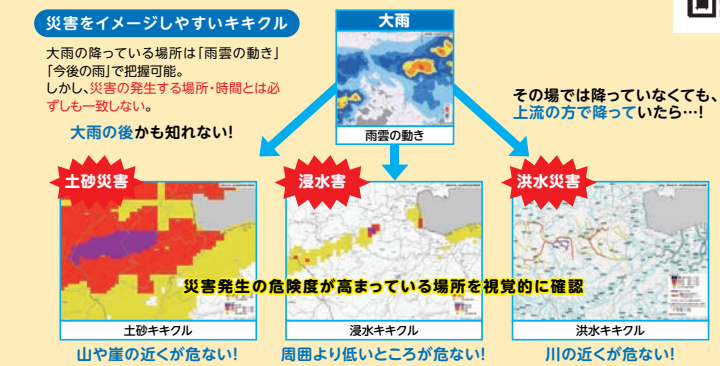
●おおいた防災情報ポータル

大分県内の市町村の防災情報や道路規制情報、防災マップ(避難所・警戒区域など)が確認できます。



●キキクル 危険度分布

気象庁では、大雨による洪水、浸水害、土砂災害の危険度をキキクル(危険度分布)のホームページで色分けして掲載しています。



●Jアラート

弾道ミサイル情報、大津波警報、緊急地震速報などの緊急情報を、人工衛星を用いて国(内閣官房・気象庁から消防庁を経由)から送信し、市町村の防災行政無線や携帯メール、コミュニティFMを自動起動させるもので、国から住民まで緊急情報を瞬時に伝達するシステムです。

●大分県雨量・水位観測情報

大分県で観測している雨量・水位の情報を確認できます。



●国土交通省 川の防災情報

河川に設置されている水位計・カメラが確認できます。



●緊急地震速報

緊急地震速報は、地震の発生直後に、各地での強い揺れの到達時刻や震度、長周期地震動階級を予想し、可能な限り素早く知らせる情報のことです。

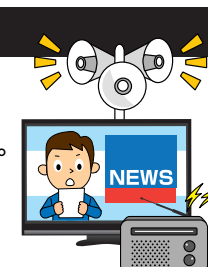


Jアラートの放送例

ゲリラ攻撃情報

警報音：ブーッ

ミサイル発射。ミサイル発射。ミサイルが発射されたものとみられます。建物の中、又は地下に避難してください。



大津波警報

警報音：ウーメウメウーメ

大津波警報。大津波警報。東日本大震災クラスの津波が来ます。ただちに高台に避難してください。



緊急地震速報

警報音：ピロン ポローン♪
ピロン ポローン♪

緊急地震速報。大地震です。大地震です。



緊急時の連絡

▶ 緊急時の連絡先

	名称	電話番号
行政	豊後大野市役所	0974-22-1001
	豊後大野市役所 清川支所	0974-35-2111
	豊後大野市役所 緒方支所	0974-42-2111
	豊後大野市役所 朝地支所	0974-72-1111
	豊後大野市役所 大野支所	0974-34-2301
	豊後大野市役所 千歳支所	0974-37-2111
	豊後大野市役所 犬飼支所	097-578-1111
消防・警察	豊後大野市消防本部	0974-22-0450
	豊後大野警察署	0974-22-2131

消防・救急は

119番

警察は

110番

	名称	電話番号
ライフライン	〈電話の故障〉 NTT西日本	0120-444-113
	〈停電〉 九州電力送配電(株) 三重配電事業所	0800-777-9430
	〈水道〉 市役所上下水道課	0974-22-3136

	名称	電話番号
ケーブルテレビの相談 ケーブルテレビが映らない、音声お知らせ放送端末の調子が悪い、市内無料電話が繋がらないなど。	大分ケーブルテレコムカスタマーセンター	0974-24-5023

もしもの時のために**連絡先**を記入しましょう。

■ 家族・親戚		■ かかりつけの病院	
名前	☎	名前	☎
名前	☎	名前	☎
名前	☎	名前	☎

▶ 災害用伝言サービス

災害発生時は、家族や知人と連絡が取れなくなることがあります。事前に話し合い、連絡方法を確認しておきましょう。なお、電話会社各社では、大規模な災害発生時に災害用伝言ダイヤルなどを利用できます。事前に利用方法を確認しておきましょう。

NTT西日本 《災害用伝言ダイヤル171》 	NTTドコモ 《災害用伝言板》 	au 《災害用伝言板サービス》 
SoftBank 《災害用伝言板》 	楽天モバイル 《災害用伝言板》 	

災害用伝言ダイヤルとは？

NTTでは、災害発生時に、被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否などの情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。

■ 災害用伝言ダイヤルの使い方

伝言の録音

171-①-●●●●●●●●●●●●●●●●

伝言の再生

171-②-●●●●●●●●●●●●●●●●

自宅の電話番号、
または連絡を取りたい方の電話番号

■ 伝言内容(時間): 1伝言あたり30秒以内

■ 伝言保存期間: 提供終了まで

■ 伝言蓄積数: 1電話番号あたり1~20伝言まで

■ 利用可能電話: 加入電話、ISDN、ひかり電話、携帯電話(一部除く)等

※ ISDNおよびひかり電話をご利用でダイヤル式電話機をお使いの場合は

ご利用になれません。
※ 伝言蓄積数や保存期間は災害の状況により異なります。